

第11期東京都生涯学習審議会

第4回全体会 審議資料

令和元年12月19日

第4回全体会 次第

1 開会

2 議事

(1) 事例紹介

E U 及び北欧の若者支援の取組について

(2) 審議

3 今後の予定

4 閉会

2 議事

(1) 事例報告

E U及び北欧の若者支援の取組について
なぜ北欧はユニバーサルな
ユースワークが可能か

文教大学生生活科学研究所 研究員

両角 達平さん

なぜ北欧はユニバーサルな ユースワークが可能か？ スウェーデンを事例に

第11期 東京都生涯学習審議会 (第4回)

両角達平

両角達平 (モロズミ タツヘイ)

88年生 長野 → 静岡 → スウェーデン → ドイツ → スウェーデン → 東京

所属 研究機関

- ・駒澤大学 総合教育研究部 非常勤講師 (若者の居場所と参加 I)
- ・文教大学 生活科学研究所 研究員 ・客員研究員
- ・文教大学 人間科学部 非常勤講師 (国際教育論)
- ・静岡県立大学 国際関係学 研究科 **CEGLOS** 客員共同研究員
- ・浦和学院専門学校 看護学科 非常勤講師 (生活科学)
- ・研究・講演・通訳・ブログなど

ブログ: **Tatsumaru Times** : <https://tatsumarutimes.com>

- ・ストックホルム大学 教育学研究科 修士 (国際比較教育) 卒 / 静岡県立大学 国際関係学部 卒

社会活動

- | | |
|-------------------------------|--|
| □ 中・高校生施設職員交流会 TEENS | □ 内閣府 子ども若者育成支援点 検評価会議 構成員 (2011年) |
| □ シティズンシップ教育フォー ラム(JCEF) | □ YEC (若者エンパワメント委 員会) 創設・元代表・サポー ター (静岡) |
| □ NPO法人 Rights 理事 | |
| □ Youth Policy Labs (ベルリン) | |



岐路に立つ

ヨーロッパのユースワーク

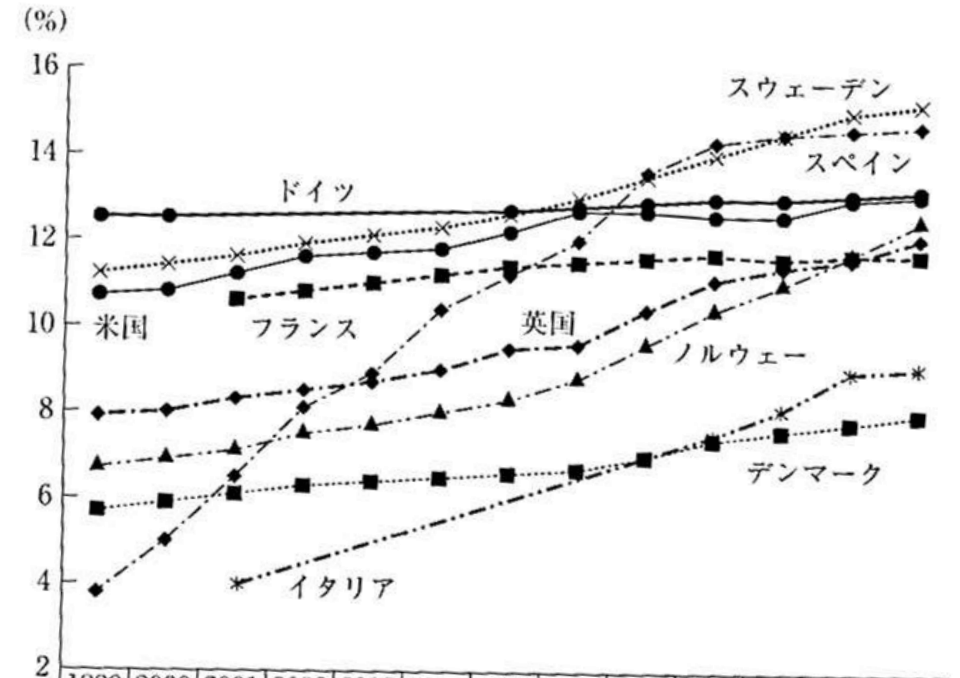
現代ヨーロッパにおいて若者政策が浮上した背景

- 1970 ~ **若者の失業問題**、高学歴化、**社会的関心の希薄化**、消費市場の拡大
 - →社会的に排除される若年層の増大、二極化、移行期の複線化、多様化
 - →若者が「社会的排除」層にあることを認識
- 1990 ~ 若者政策 の誕生
- 2001 EU 若者白書 (White Paper on Youth)
 - 3つの目標
 1. 若者の積極的シティズンシップ
 2. 若者の経験分野を拡大し認識を広げる
 3. 若者の自律を促す
- 2010-2018 若者分野における欧州の協力のための新しい枠組み
- 教育と労働市場におけるすべての若い人たちのためのより平等な多くの機会を提供する。
- すべての若者の**積極的市民性**、**社会的包摂**、**連帯**を促進する。



ヨーロッパにおける外国生まれの人口の比率

ヨーロッパにおいては社会的排除は、移民統合の問題
 グローバリゼーションにより越境的な移動を経た「移民」人口の増加が、社会政策の対応をもとめた



| | 1999 | 2000 | 2001 | 2002 | 2003 | 2004 | 2005 | 2006 | 2007 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 |
|------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| ●—ドイツ | 12.4 | 12.5 | | | | | 12.6 | 12.7 | 12.8 | 12.9 | 12.9 | 13.0 | 13.1 |
| ■--フランス | | | 10.5 | 10.7 | 10.9 | 11.1 | 11.3 | 11.4 | 11.5 | 11.6 | 11.5 | 11.6 | 11.6 |
| ◆--英国 | 7.6 | 7.9 | 8.2 | 8.4 | 8.6 | 8.9 | 9.4 | 9.6 | 10.3 | 11.0 | 11.3 | 11.5 | 12.0 |
| *-イタリア | | | 3.9 | | | | | | | 7.4 | 8.0 | 8.9 | 9.0 |
| ×---スウェーデン | 11.1 | 11.3 | 11.6 | 11.8 | 12.0 | 12.2 | 12.5 | 12.9 | 13.4 | 13.9 | 14.4 | 14.8 | 15.1 |
| ●—米国 | 10.6 | 10.7 | 11.1 | 11.5 | 11.6 | 11.7 | 12.1 | 12.6 | 12.6 | 12.5 | 12.5 | 12.9 | 13.0 |
| ◆--スペイン | 3.7 | 4.9 | 6.4 | 8.0 | 8.8 | 10.3 | 11.1 | 11.9 | 13.5 | 14.2 | 14.4 | 14.5 | 14.6 |
| ▲--ノルウェー | 6.6 | 6.8 | 7.0 | 7.4 | 7.6 | 7.9 | 8.2 | 8.7 | 9.5 | 10.3 | 10.9 | 11.6 | 12.4 |
| ■--デンマーク | 5.6 | 5.8 | 6.0 | 6.2 | 6.3 | 6.4 | 6.5 | 6.6 | 6.9 | 7.3 | 7.5 | 7.7 | 7.9 |

(注) 外国生まれの人口の比率
 (資料出所) OECD, International Migration Outlook 2013 (1999年, 2000年データは同2010, 2012)
 (出典) 本川 2013

図6-1 主要国の移民人口の比率

欧州委員会が考える、若者の社会参加が必要な理由

1. 基本的人権だから
2. 子ども・若者が排除されなくなるから
3. 若者が生きる力や能力を高め、自信が持てるようになり
価値観や規範意識、抱負を抱くようになる
4. 政策、公共サービス、実践の質が向上するから
5. 積極的な市民になるためには、訓練が必要だから

欧州議会の提言によると、家庭、学校、職場、余暇活動、若者の活動で、民主主義を教えることを怠ると、**若者は政治に対してひがみっぽくなり、投票率は下がり、政治家、政党、政治的な若者団体への不信感が募る。**さらに、研究によると市民教育の経験がない若者は、同調圧力により極端な思考に陥り、暴力的な政治活動をしやすくなる

ヨーロッパにおける ユースワークの二極化

ユニバーサル型

- 万人向け (universal)
- 誰にでも開かれたユースセンター
- 健全育成的 (しかし誰でも参加可能)
- 福祉国家的
 - 1960=70年代のイギリス
 - 北欧
- 普遍的権利(Universal right) を基盤とする
- 包括的な社会参加
 - 積極的シティズンシップ、参加
- 実践共同体への参加
- 若者白書 (2001)

ターゲット型

- 特別な必要を持つ人だけ (target)
- NEET 向けの事業・施策
- 自由主義国家的
 - サッチャー政権以降
- 社会的排除層を対象
- 教育・訓練・就業への参加
- 個別化された支援
 - 情報提供、助言、ガイダンス
- 若者協定 (2005)

ユースワークは、

1. **ノンフォーマルであること**…ノンフォーマルな教育の機会を提供し、子ども・若者自身の興味や関心から始まる活動である。
2. **多様性**…若者たちの仲間関係やそのアイデンティティを、幅広く共有しながら活動し、それぞれの選択や可能性にとって重要な、階級やジェンダー、人種、セクシュアリティや進行などを互いに理解し認識しあう。
3. **参画**…若者たちの利益になるような、パワーバランスを追求する。
4. **開かれていること**…子ども・若者が、誰でも自分の意思で参加できる、開かれた場で行われる活動である。
5. **将来よりも「いま、ここ」**…若者たちの「将来」への関心とともに、「いま、ここ」にいる彼らの価値を大切にし、注意を払う。
6. **社会関係資本**…若者たち同士や若者と大人の間に、相互への敬意を払い信頼できる人間関係を作り上げることが追求される。
7. **ワーカーの資質**…ワーカー自身の存在価値や、自律的に仕事を進める余地があることの意義、そして即興的でありながらも、よく訓練された実践の重要性を認識している。

ヨーロッパにおける国際的な若者政策の形成文脈

表1：ヨーロッパにおけるユースワークに関連する主な若者政策の発展の推移

| 年 | 施行された若者政策 | 実施主体 |
|-------|---------------------------------------|-----------|
| 1985年 | 世界青年年 | 国際連合 |
| 1989年 | 国際連合における児童の権利条約の採択 | 国際連合 |
| 1998年 | リスボン宣言 | ユネスコ |
| 2001年 | 若者白書「欧州の若者のための新たな一押し」 | 欧州委員会 |
| 2005年 | 若者協定 | 欧州理事会 |
| 2007年 | 若者ためのアクション世界プログラム | 国際連合 |
| 2009年 | 青少年分野における欧州の協力についての新たな枠組（2010 - 2018） | 欧州理事会 |
| 2010年 | 第一回欧州ユースワーク大会 | EU議長国ベルギー |
| 2015年 | EU若者レポート | 欧州委員会 |
| 2015年 | 第一回欧州ユースワーク大会 | EU議長国ベルギー |
| 2018年 | 新EU若者戦略(2019-2027) | 欧州委員会 |

欧州ユースワーク大会の概要

| 大会名 | 第一回欧州ユースワーク大会 | 第二回欧州ユースワーク大会 |
|-----------|--|---|
| 主催枠組み | EU議長国ベルギー | EU議長国ベルギー |
| 開催地 | ベルギー・アントワープ | ベルギー・ブリュッセル |
| 開催年月 | 2010年7月 | 2015年4月 |
| 大会目的 | ユースワークの過去・現在・未来を結びつけること | ユースワークの共通の基盤、公共政策と若者の課題との関連を明らかにすること |
| 大会の行程 | ベルギーのブランケンベルグ市で開催された2つのセミナー後に、3日間かけて総会、ユース・イン・アクション ワークショップ、現地の若者プロジェクトへの訪問、テーマ別セミナーを実施。 | 3日間で、プレナリースピーチ、プレゼンテーション、24のワーキンググループの開催、20か所の現場訪問 |
| 参加者数 | 50カ国から400人以上 | 500人 |
| 成果文書名 | 第一回欧州ユースワーク大会宣言 | 第二回欧州ユースワーク大会宣言 |
| 成果文書名（英語） | Declaration of the First European Youth Work Convention | Declaration of the 2 nd European Youth Work Convention |
| 発行年 | 2010年 | 2017年 |



表1：第一回・第二回欧州ユースワーク大会宣言の比較考察

| | | 第一回欧州ユースワーク大会宣言 | 第二回欧州ユースワーク大会宣言 |
|---|------------|---|--|
| 比較考察①： [ユースワークの定義に関する議論] | ユースワークの定義 | 若者が自らの将来を描くための場所と機会 | ユースワークの2つの共通の基盤である「若者の居場所(place)を作ること」と「若者の人生の橋渡しをすること」 |
| | 原理・価値 | <ul style="list-style-type: none"> 参加とエンパワメントの原則、人権と民主主義の価値、そして反差別と寛容によって導かれ統治される 権利基盤、機械への着目、肯定的な志向性、アクセスと参加の平等 | ユースワークとは、若者の想像力、主体性、統合、参画、抱負 (aspiration) を掻き立てることである。ユースワークの原理とは、教育、エンパワメント、参画、表現そして包摂である。 |
| | 対象の若者像 | <ul style="list-style-type: none"> 社会階級、宗教・信条、支持政党、文化的関心によってしばしば特徴づけられる様々な若者集団 幼児期から成人期へ移行する若者 | <ul style="list-style-type: none"> 課題が明確な者もいれば、長引いている者もいれば複数の問題を抱えている者もいる。すべての若者がそれぞれの段階における何かしらのサポートと、自律するための支援を必要としている 新たなテクノロジーやデジタルメディア、教育機会、情報へのアクセスの拡大により、これまでにない新しい機会を享受しつつも、若者はリスクと不確実性に直面している 「NEETの若者」、「健康リスクの高い若者」「市民としての責任感のない若者」「過激主義の若者」「社会的排除のリスクの高い若者」 |
| 比較考察②： [ユースワークの実践の質の保障と社会的認知] | 連携先 | 教育、医療、雇用、司法 | 学校、刑務所、就労の訓練、労働市場 |
| | ユースワーカーの形態 | 有給ワーカーとボランティア | 被雇用、フリーランス、ボランティアのユースワーカー |
| 比較考察③： [緊縮財政下におけるユースワークの意義の強調と道具化への懸念] | 質と社会的認知 | <ul style="list-style-type: none"> 過去の学習に対する資格付与のルートの確立 質の基準の設定 欧州レベルにおける開発と実施 <ul style="list-style-type: none"> (ユース・イン・アクション) 倫理規約 | <ul style="list-style-type: none"> 資質モデルの形成/経験や学習に対する認定制度 欧州レベルにおける開発と実施(ユース・イン・アクション) ユースワーク分野にかかわるNGO (非政府組織) へも資格付与 異なる次元における政治、公共セクター、市民社会における積極的な奨励活動とアドボカシー ユースワークの職業化を進めるには、教育セクターとの協働が必要 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 協力関係においては力の弱いパートナーとなる可能性がある 若者の生活に対する固有の貢献が侵食されてしまうという懸念 警察や職業訓練機関などとユースワークとの協働が若者とユースワークの特別な信頼関係を犠牲にしてしまう可能性 若者とかわる他分野とは異なるユースワークの「特別な立ち位置」を明示 ユースワークに対する財政基盤を、異なるレベルにおいて堅強にしていくこと | <ul style="list-style-type: none"> ユースワークに対する財政基盤を、異なるレベルにおいて堅強にしていくこと ユースワークが政治的にも財政的にも支持されつつも、ある国では緊縮財政の犠牲となり、またある国では政治に変化をもたらさないものとなった結果として、財政的支援、社会的認知度、信頼性において課題を残すことになった ユースワーク へのアウトカム重視の傾向への懸念 「贅沢品ではなく必需品」としてのユースワークの強調 ユースワークに資することがもたらす3つの帰結 |

スウェーデンという
国について



スウェーデン

ヨーロッパの国

首都：ストックホルム(市人口約93万人)

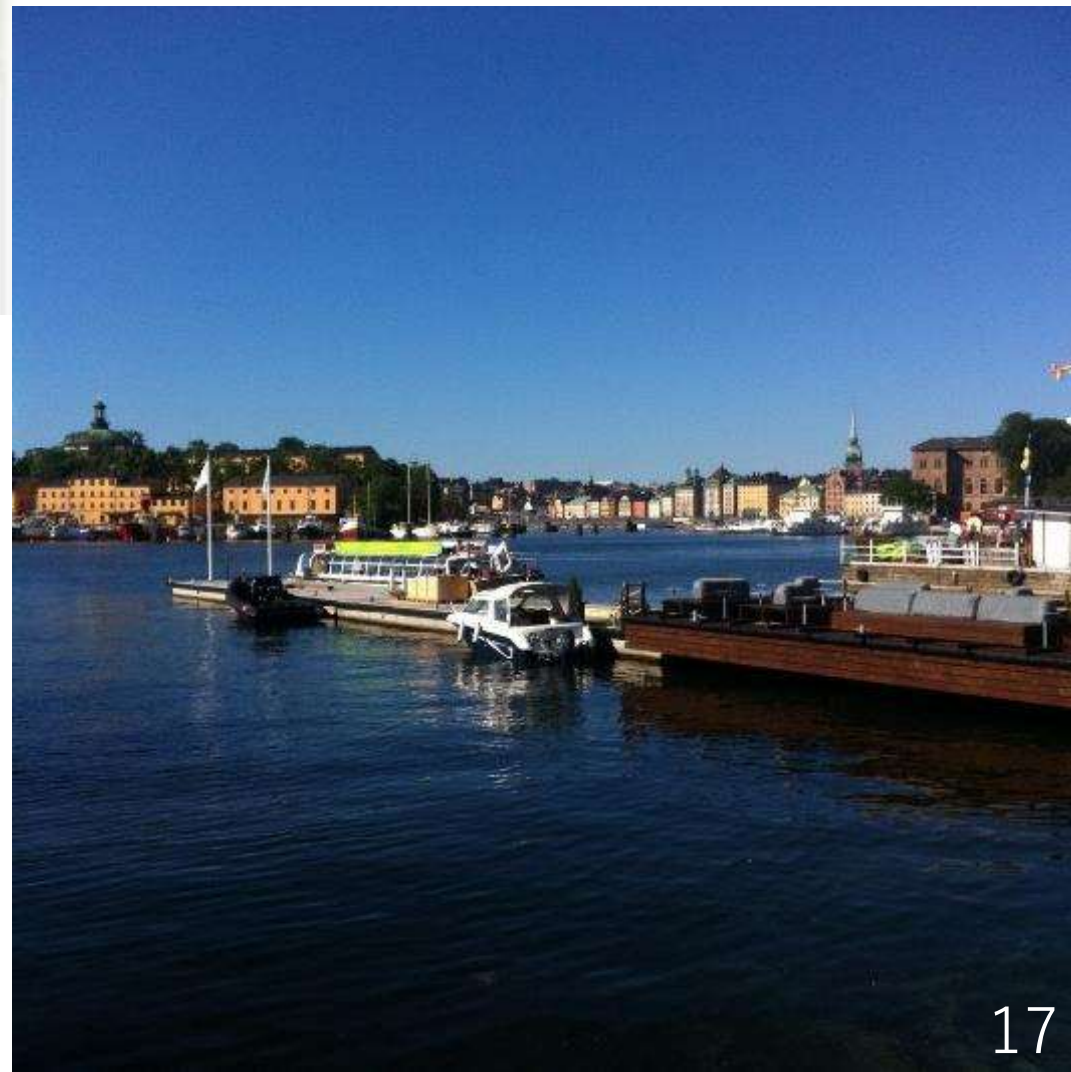
通貨：スウェーデン・クローナ(SEK)

人口：約1000万(2017年)

公用語：スウェーデン語

政治：立憲君主制・一院制

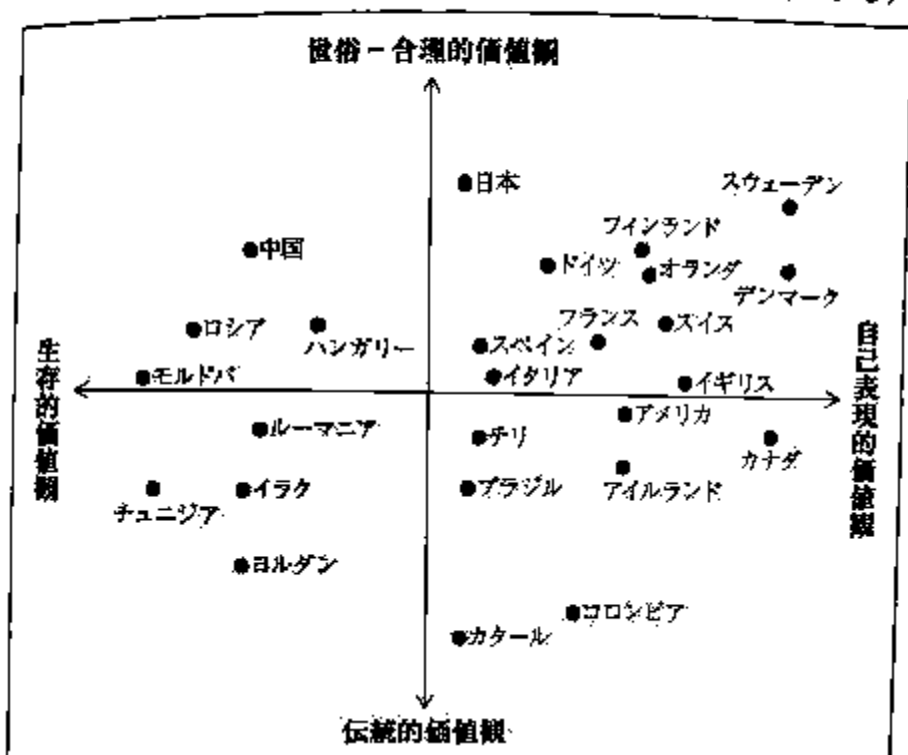
主要産業：機械工業、化学工業、林業、IT



| 国際ランキング名 | 評価主体 | 順位 | 年 |
|------------------|-------------------------------|----|------|
| SDGs達成度ランキング | 国連持続可能な開発ソリューション・ネットワーク(SDSN) | 1位 | 2018 |
| 最もビジネスに適した国ランキング | 米国ビジネス誌Forbes | 1位 | 2017 |
| 革新性評価指標 | 欧州委員会 | 1位 | 2017 |
| 汚職認知指数 | トランスペアレンシー・インターナショナル | 4位 | 2016 |
| 世界男女格差レポート | 世界経済フォーラム | 4位 | 2016 |
| 国の評判ランキング | レピュテーション・インスティテュート | 1位 | 2016 |
| 世界若者幸福度調査 | 国際若者基金 | 1位 | 2017 |

スウェーデンは進歩的な価値観が強い国

図1 インゲルハートとヴェルツェルによる世界価値観調査データの分析
(掲載国の選定は筆者による)



「伝統的価値観」は、宗教、親子関係、権威への恭順、伝統的な家族の価値の重要性を表している。これらの価値を認める人々は、離婚や中絶、安楽死や自殺を拒絶する。こうした社会は、国に対する誇りや愛国主義的な見方が強い。

「世俗-合理的価値観」は、「伝統的価値観」と逆の志向性である。こうした社会では、宗教や伝統的な家族の価値、権威をあまり強調しない。離婚、中絶、安楽死、自殺に対しては比較的寛容である（ただし、これは必ずしも自殺者が多いということではない）。

「生存的価値観」は、経済的、物質的安定を強調する。これは、比較的自民族主義的な見方や信頼感・寛容性の弱さと結びつく。

「自己表現的価値観」は、環境保護や外国人、ゲイ、レズビアン、男女平等への寛容性が向上し、経済・政治における決定への参加欲求の高まりに対して高い優先順位を与える。

出典：世界価値観調査。

スウェーデンの若者について

スウェーデンの若者とは



- **13～25歳**の若者は、**150万人**
- **4人に1人**が首都のストックホルム市に住む
- **84%**がスウェーデン生まれ。
 - スウェーデン国外で生まれた若者の出生国のトップ**3**：シリア(**2.8%**)、ソマリア(**1.7%**)、イラク(**1.4%**)
- **12歳**から**15歳**の子どものうち、約**7割**が地域のクラブ活動や協会活動に週に**1回**、
参画
 - **16歳**から**18歳**になるとこの割合が**5割**に下がる。**56%**の男子がサッカーなどのスポーツのクラブ・協会活動をする一方、女子の割合は**38%**
- ボーイスカウト、ガールスカウト、劇活動、音楽活動、聖歌隊などの活動を大人と共にする**12歳**から**15歳**の若者は**23%**
- 平日に少なくとも**3時間**ゲーム（パソコン、スマートフォン、テレビ）をすると答えた若者は、男子は**26%**、女子は**4%**
- スウェーデンの**12～18歳**の半数は、教科書以外の本を余暇の時間に少なくとも週に**1度**読む
 - 過去半年の間に図書館を利用した若者は**64%**
- **13～15歳**(**13%**)よりも**16～18歳**(**55%**)の方が夏休み期間限定のアルバイトを経験

いま世界が注目する グレタ・トゥンベリ

- グレタはスウェーデンの女子高生。
2015年の夏から登校拒否をし、議会前に座り込む抗議活動を開始
- 「気候変動ための学校ストライキ
(Skolstrejk för Klimatet)」と書かれた
プレートを掲げ、一人っきりで座り込みを
始めた当時は**15**歳



全世界へ広がる

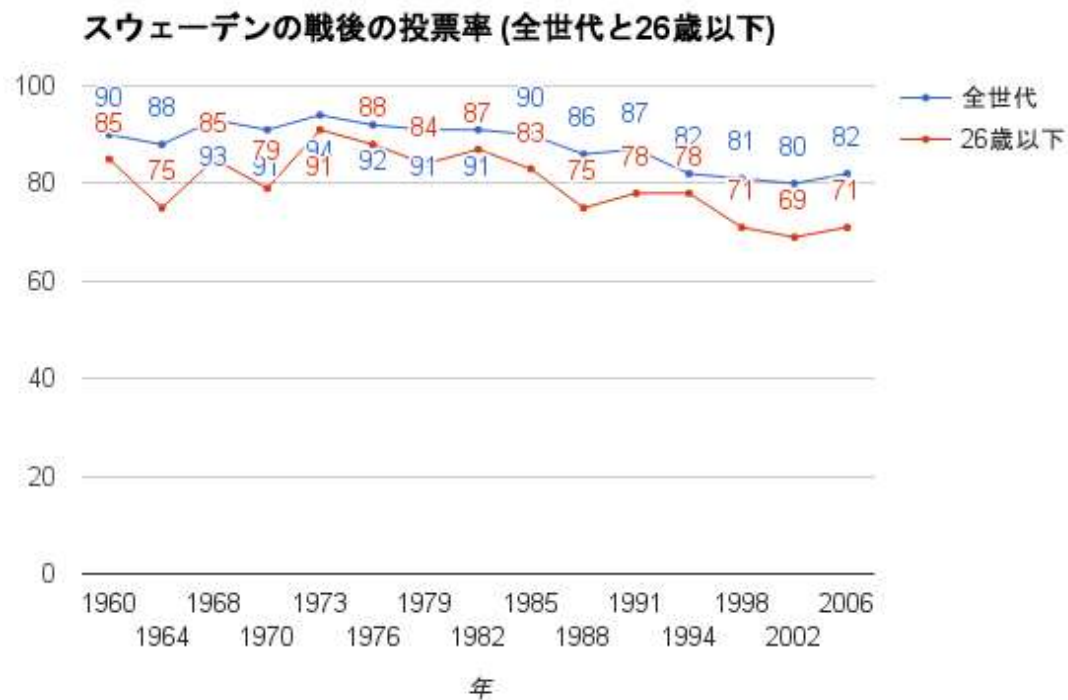
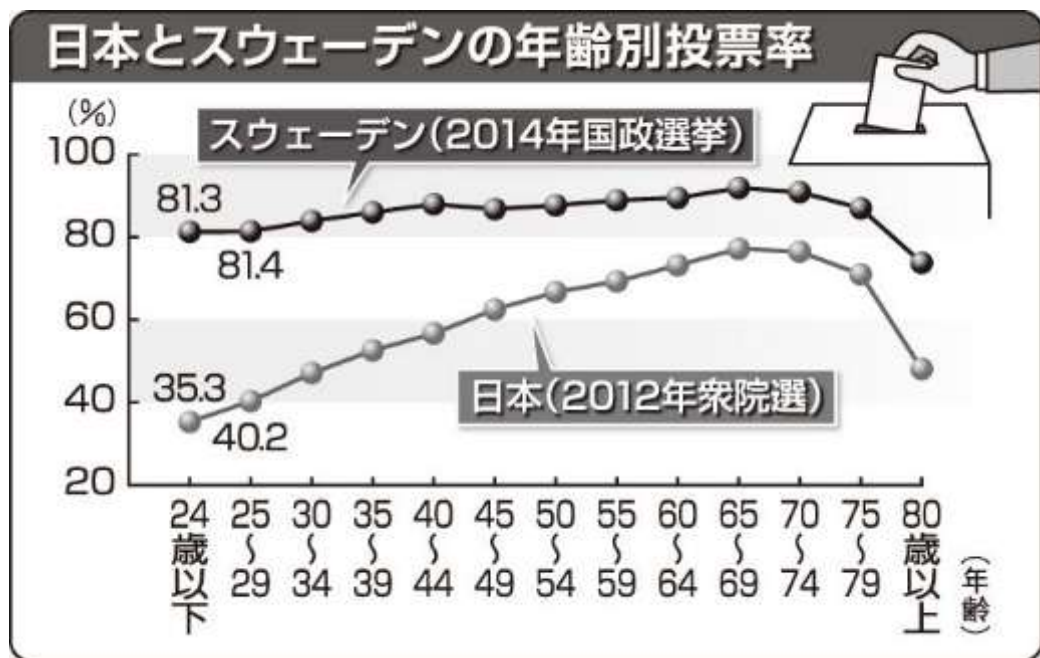
- **12**月にポーランドで開いた国連気候変動枠組条約第**24**回締約国会議（**COP24**）や、**2019**年**1**月のスイス・ダボスでの世界経済フォーラムに招待をされ、さらに注目を集める
- グレタの主張に世界中の若者が賛同し各地でストライキが勃発
 - **11**月のオーストラリア各地では**15000**人
 - **12**月にはスイスで**4000**人
 - 年明けのベルギーでは**12750**人
 - ドイツでは**25000**人
 - オランダ、アイスランド、ノルウェー、ニュージーランド、デンマーク、フランス、イタリア、イギリス、アメリカ、カナダ、チリへと全世界に抗議活動は広がる
 - 最終的には学校のない南極大陸以外全世界**2000**都市で抗議活動が展開
- ノーベル平和賞の候補者へ

2018年総選挙の投票率 : 87.18% 18~24歳の投票率は84.9%



| Tabell 1a | Riksdagsvalet 2018. Röstningsförhållanden bland samtliga efter Samtliga röstberättigade (svenska medborgare i Sverige och utlands) | | |
|---|---|-------------|-------------|
| Ålder | Röstande i % av röstberättigade | | |
| | Män | Kvinnor | Alla |
| 18-24 år | 82.3 | 87.7 | 84.9 |
| 25-29 år | 82.6 | 87.8 | 85.1 |
| 30-34 år | 84.6 | 87.8 | 86.2 |
| 35-39 år | 85.8 | 88.0 | 86.9 |
| 40-44 år | 87.3 | 89.3 | 88.3 |
| 45-49 år | 88.6 | 90.6 | 89.6 |
| 50-54 år | 88.2 | 90.7 | 89.4 |
| 55-59 år | 87.9 | 90.5 | 89.2 |
| 60-64 år | 88.6 | 90.9 | 89.7 |
| 65-69 år | 89.5 | 91.0 | 90.3 |
| 70-74 år | 90.2 | 90.3 | 90.3 |
| 75-79 år | 88.9 | 87.3 | 88.0 |
| 80- år | 80.3 | 71.6 | 75.1 |
| 18- år | 86.5 | 87.8 | 87.2 |
| Kommentar: Med ålder avses ålder vid valårets slut. | | | |
| Källa: SCB:s valdeltagandeundersökning | | | |

日本と比較して高いスウェーデンの若者の投票率



作成：公明新聞

投票だけではなく社会参加への意識も高いスウェーデンの若者



- **16～24歳**の若者で政党の党員であると回答した若者の割合：5.6%
- 市議会選挙で指名された**18～24歳**の若者の割合：5%
- 地域の意思決定者に意思表示をする機会があると感じている若者の割合
 - **16～19歳**の若者は**21.5%**
 - **20～24歳**の若者は**14.7%**
- 住んでいる地域の、自分自身に関連のある問題に影響を与えたいと思っている**16-25歳**の若者の割合：45.6%
- 少なくとも1つの協会・クラブ活動 (**förening**) に属する若者の割合
 - **25-29歳**：70%
 - **16～24歳**：58%

スウェーデンの若者白書の2016年版
「Ung Idag 2016」

意識だけでなく実際に 若者が国を作っている



- 選挙権・被選挙権は国政地方選
も**18歳**
 - **16歳**選挙権の導入を検討中
- 若い国会議員の割合
 - **18~24歳**：**2.3%**
 - **25~29歳**：**8.3%**※
- 現在最年少の国会議員が穏健党
青年部所属の**22歳**のヤスヘル・
カールソン
- 現政権の連立内閣**24人**の中の若
い大臣
 - グスタフ・フリドリン (**33歳**)
教育大臣
 - **2002年**の国政選挙において**19歳**で当選
 - アイダ・ハジアリッチ (**29歳**)
高校・知識向上担当大臣
ボスニア・ヘルツェゴヴィナ生まれ
 - ガブリエル・ヴィークストロム (**31
歳**)
国民健康・医療およびスポーツ担当
大臣 社会民主党青年部の代表

世界で最も若者にやさしい国

The Global Youth Wellbeing Index

[THE INDEX](#) [ABOUT](#) [FULL REPORT](#) [CONTACT](#)



出典：世界若者幸福度調査2017
(<http://www.youthindex.org/>)

| | スウェーデン | 日本 |
|-------|--------|-----|
| 総合 | 1位 | 7位 |
| ジェンダー | 2位 | 15位 |
| 経済 | 1位 | 6位 |
| 教育 | 1位 | 16位 |
| 健康 | 10位 | 26位 |
| 安全 | 1位 | 4位 |
| 市民参加 | 3位 | 12位 |
| ICT | 1位 | 7位 |

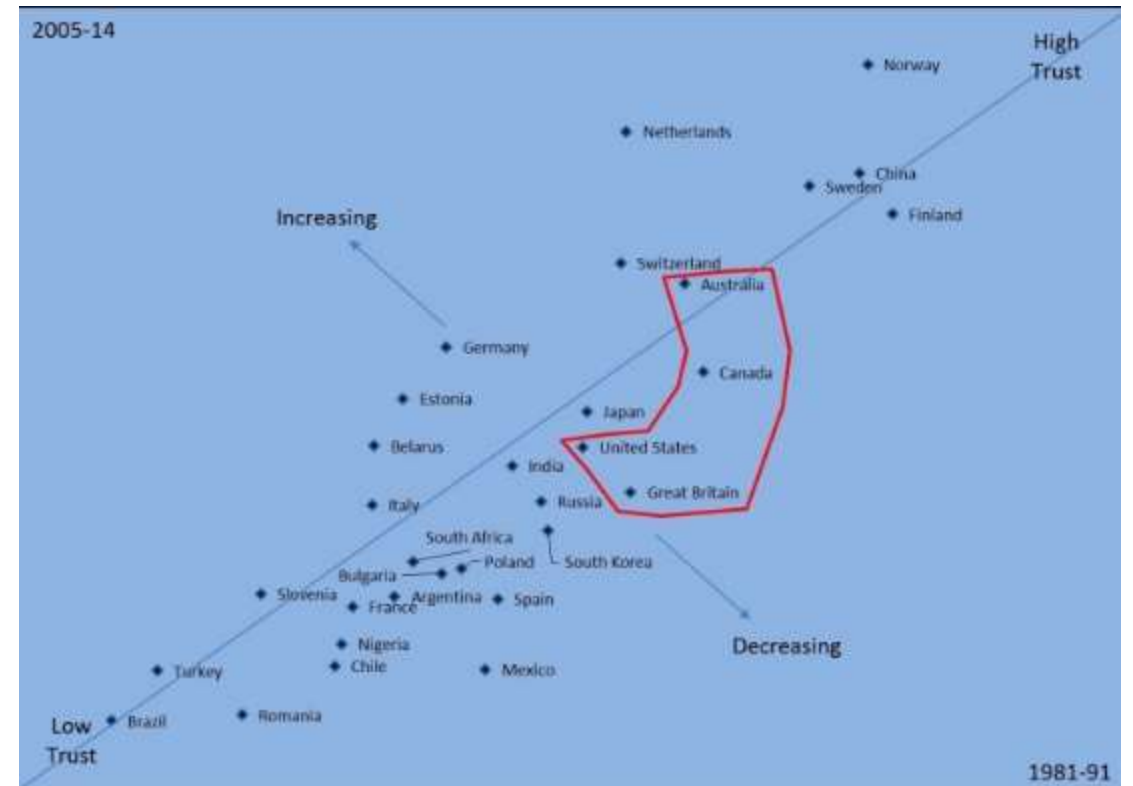
税金負担を厭わない若者

スウェーデンの友人 ミッケ談

- 「学生的时候は金がなかったけど、学費も歯医者**(23歳まで)**も医療保険もほとんど無料だったおかげで、なんとかなった。だから今は自分が税金を負担する番で、それでいいと思ってる」
- 「たしかにスウェーデンの政治や政党に関しては意見が分かれるところだけど、確かなのは多くの方が、高い税金で学費や保険がカバーされているスウェーデンモデルへ多少なりとも信頼はある」

北欧の高い社会関係資本

- ✓ ノルウェーは**70%**の人が「他者を信頼できる」と回答
- ✓ スウェーデンもノルウェー同様に高い水準。
- ✓ 日本は英米と同水準の**30-40%**
- ✓ 「濃厚な市民のネットワークがあれば、人々は良好な振る舞いをし他者を信頼できる方法で尊重し合う。ゆえに、政府も機能する。」 **Robert PUTNAM, 2017**



Social trust is one of the most important measures that most people have never heard of – and it's moving | The Behavioural Insights Team
<https://www.bi.team/blogs/social-trust-is-one-of-the-most-important-measures-that-most-people-have-never-heard-of-and-its-moving/>

スウェーデンの教育・社会教育 について

スウェーデンは日本よりも**PISA**の成績は良くない

| | | 2000年 | 2003年 | 2006年 | 2009年 | 2012年 | 2015年 |
|--------|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 日本 | 読解力 | 8 | 14 | 15 | 8 | 4 | 8 |
| | 数学的リテラシー | 1 | 6 | 10 | 9 | 7 | 5 |
| | 科学的リテラシー | 2 | 2 | 6 | 5 | 4 | 2 |
| スウェーデン | 読解力 | 9 | 8 | 10 | 19 | 36 | 17 |
| | 数学的リテラシー | 15 | 17 | 21 | 26 | 38 | 24 |
| | 科学的リテラシー | 10 | 15 | 22 | 29 | 38 | 28 |
| フィンランド | 読解力 | 1 | 1 | 2 | 3 | 6 | 4 |
| | 数学的リテラシー | 4 | 2 | 2 | 6 | 12 | 13 |
| | 科学的リテラシー | 3 | 1 | 1 | 2 | 5 | 5 |
| OECD平均 | 読解力 | 15~16 | 18~19 | 22 | 26~27 | 25 | 27~28 |
| | 数学的リテラシー | 16~17 | 20~21 | 23 | 24 | 26 | 30 |
| | 科学的リテラシー | 12~13 | 18~19 | 23 | 23~24 | 25~26 | 28~30 |
| | 調査参加国・地域数 | 32 | 41 | 57 | 65 | 65 | 72 |

スウェーデンの 学校教育の特徴

1. 学費がかからない

- 初等・中等教育においては公立・私立にかかわらず学費はかからない。給食費、交通費、社会見学や行事の費用も、親が負担する必要はない
- スウェーデン人・EU圏内の学生の大学の学費無料
- 奨学金：4万円/月 返済型 10万円/月

2. 柔軟で、個別化した教育政策

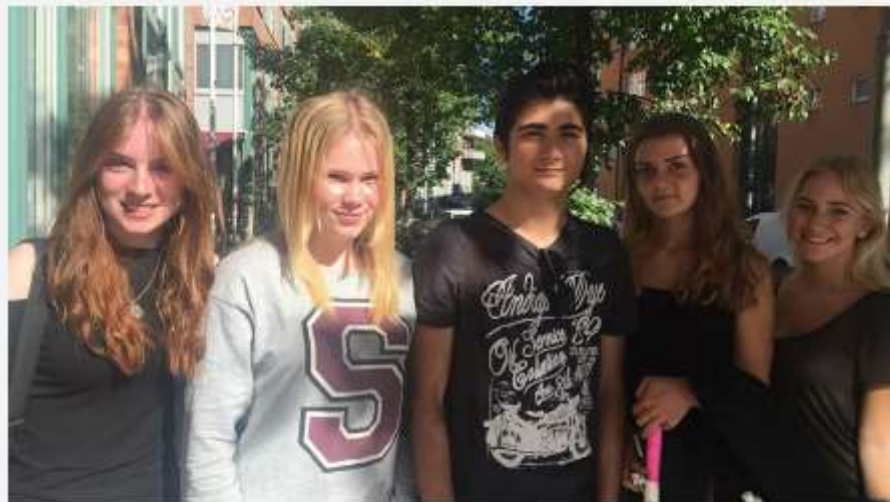
1. 分権化、学校選択制度、バウチャー制度
2. →教育の新自由主義化を招き教育の質が低下、格差拡大

3. 長く・多様な若者の「移行期」



長く・多様な若者の「移行期」

- 高校卒業後すぐに大学に進学する若者は**13.7%**のみ※



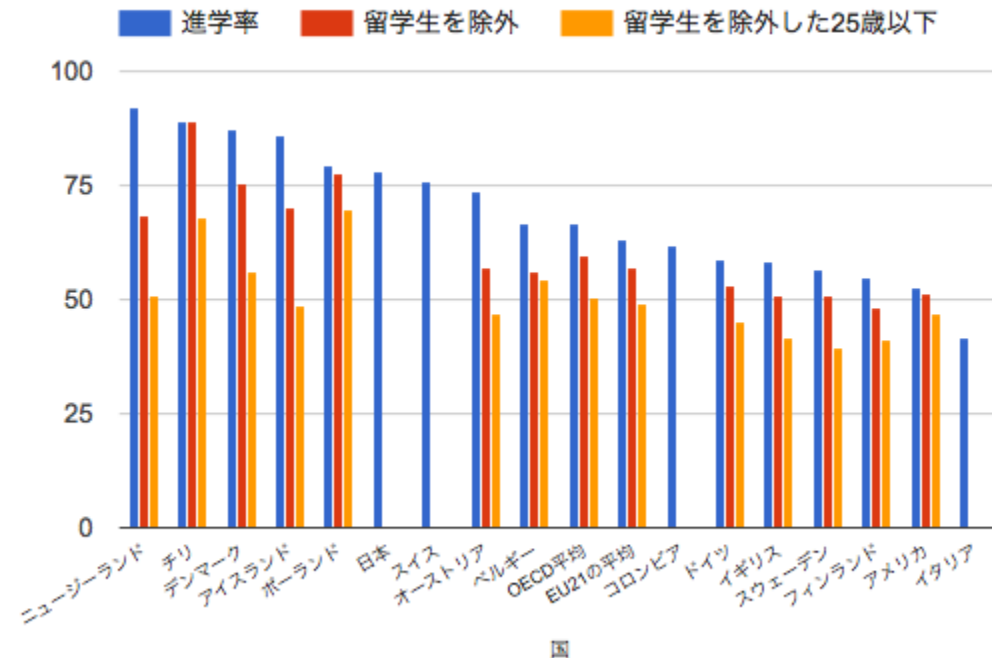
Från vänster Anna som vill ta en paus efter gymnasiet, Emma som vill läsa direkt, Daniel som vill ta en paus. Madelene och Fredrika vill börja plugga direkt för att bli klara snabbt.
Foto: Katarina Helmersson/Sveriges Radio

▶ Allt färre pluggar vidare direkt efter gymnasiet

Allt färre pluggar vidare direkt efter gymnasiet - Nyheter (Ekot) | Sveriges Radio
<https://sverigesradio.se/sida/artikel.aspx?programid=83&artikel=6509266>

大学進学率の国際比較

第三次教育進学率の国際比較 (Education at a glance 2015)



- 日本：78% ・ スウェーデン：56% OECD平均：67%
- スウェーデンは留学生を除いた進学率は51%で、25歳以下の若者の進学率は40%

学校における生徒の民主主義の参画の機会

1. 学級会・生徒会

2. 給食委員会

3. 学習方法へ影響

- 自分で何を学習するか
- この教科の中で何を学ぶか (課題)
- この時間はどこで学習するか (場所)
- 誰と学習するか (共同学習者)
- この課題がどの程度をゴールとするか (到達度)
- 何を学んだか (自己評価)

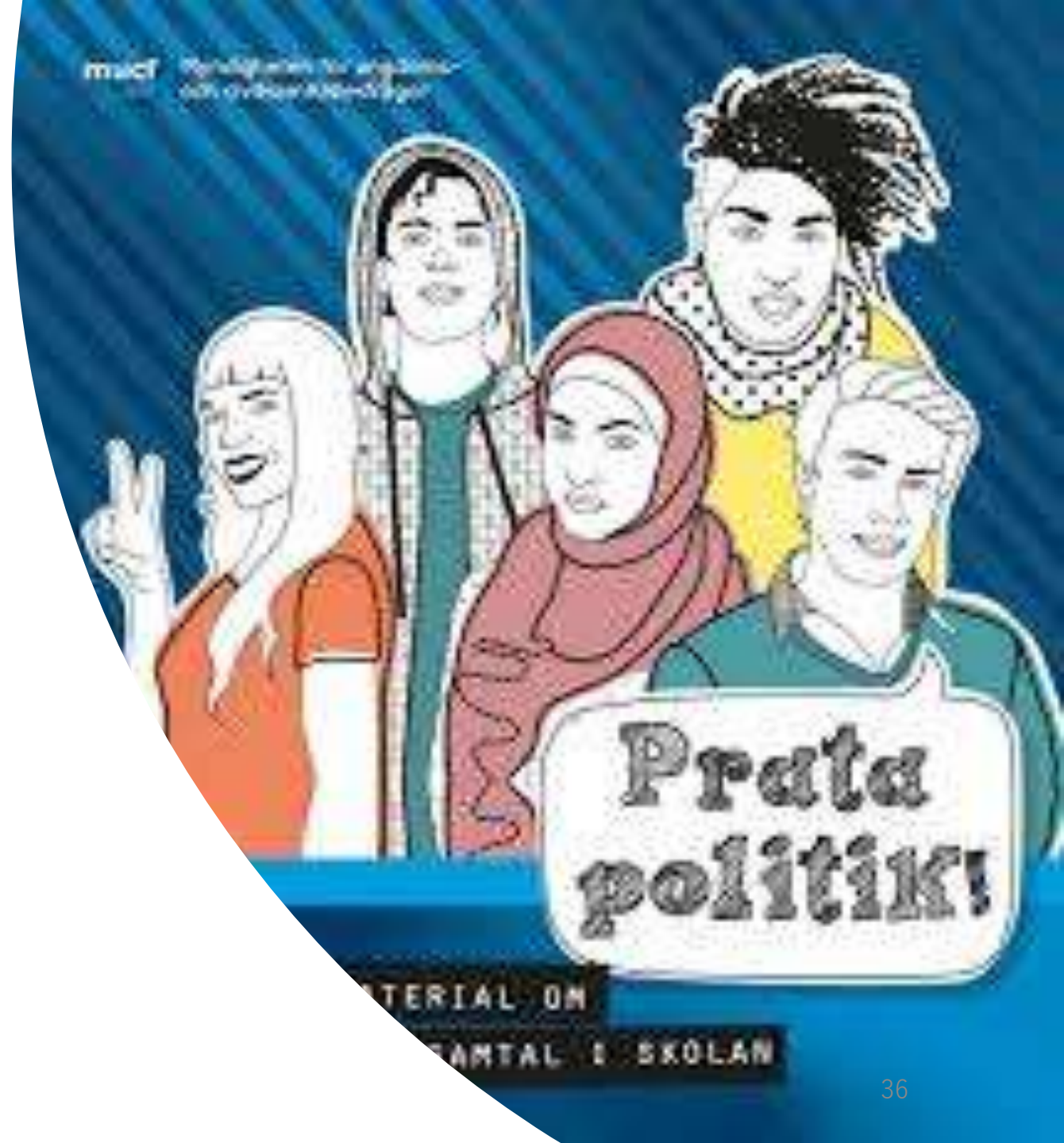
4. 学校選挙



自分の学びの主体は自分だから、自分の学習に対して**影響力をもつ**

スウェーデンにおける主権者教育とは？

- (市民的技能の定義)
- 生徒は民主主義社会において、能動的な市民性を行行使するための技能を育まなければなりません。実際には、市民的技能は以下の要素から成り立っています。
- 法が定めるところのスウェーデン社会が根ざしている寛容、平等、連帯、人権の尊重、多様性、環境などの基本的な**民主主義の価値**
- 能動的に社会参加(**delta i samhällslivet**)するために必要となる、政治、社会、**民主主義**の機能にかんする**論理的知識**
- **民主的**な社会で生活を行動をするために必要となる、読み書き、基本的な数学の技術、コミュニケーション、情報収集の技術、批判的な思考、などの**実践的な技能**。
- 生徒は、不変の知識と社会にあふれる情報を扱い取捨選択し、見極めることを学ぶだけでなく、**責任をとる経験、参加をする経験、エンパワメントをする経験、そして民主的な方法での練習の経験を持つ必要があります。**
(学校調査局, 2012)



学校における生徒の民主主義の参画の機会

1. 学級会・生徒会

2. 給食委員会

3. 学習方法へ影響

- 自分で何を学習するか
- この教科の中で何を学ぶか (課題)
- この時間はどこで学習するか (場所)
- 誰と学習するか (共同学習者)
- この課題がどの程度をゴールとするか (到達度)
- 何を学んだか (自己評価)

4. 学校選挙



自分の学びの主体は自分だから、自分の学習に対して**影響力をもつ**

スウェーデンの学校教育における「主体性と発信力」育成
- 「影響力の発揮」というキーワードに着目して, 佐藤麻里子 より

給食委員会

- 「じゃがいもが硬い」
「魚料理が多すぎる」
- 「（宗教上の理由もあるので）肉料理以外の食べ物を増やして」



学校選挙 (Skolval 2018)



- 4年に1度のスウェーデンの国政・地方選挙に合わせて実施
- 18歳未満を対象にした模擬選挙
- 生徒会が中心に実施
- 実際の選挙で使われる投票用紙、投票箱を使う
- 結果も公表
- 政治家、政党青年部を招いた討論会も合わせて開催

両角達平. スウェーデンの模擬選挙の究極の目的とは? 「学校選挙」事務局に聞いてみた . Tatsumaru Times . 2018/09/06. <https://tatsumarutimes.com/archives/21598>

学校に政治家を招いた討論会の開催

- 「学校は価値中立とはなり得ない」と認めている
- 学校は民主主義を絶対的な価値として浸透に努める
- すべての生徒は

- 性別
- 人種
- 宗教
- 信条
- ジェンダー
- 性的指向
- 年齢
- 身体障害
- その他の侮辱的な扱い

によって差別されてはならない

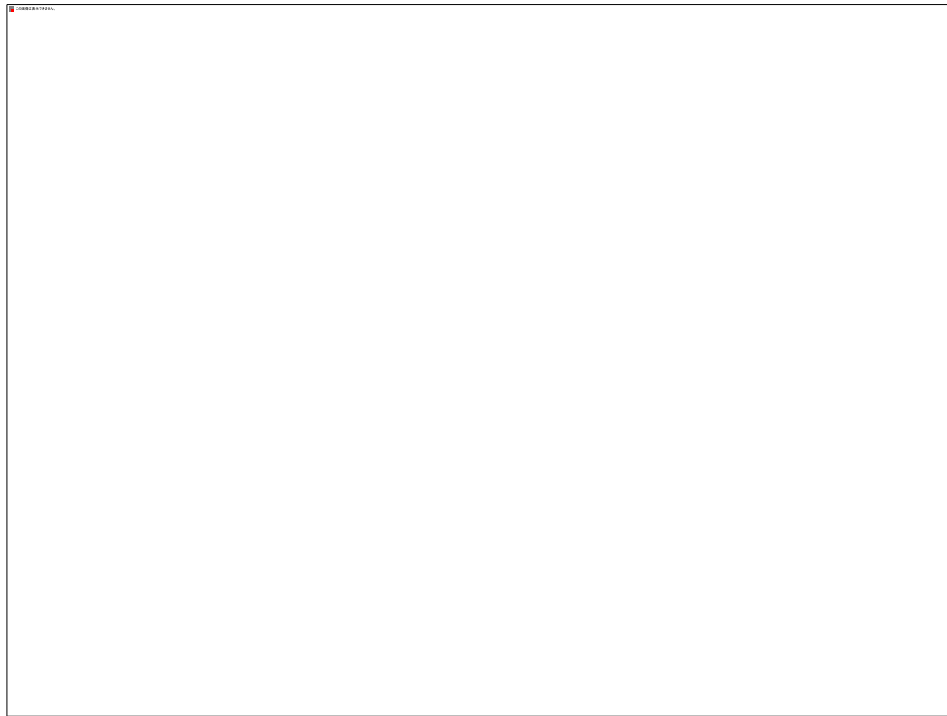
- 平等と差別禁止の原則、学校の民主主義を教える義務が適用される
- →政党の来校も同じように扱う

政治教育のハウツー本
Prata politik (政治について話そう)



選挙小屋

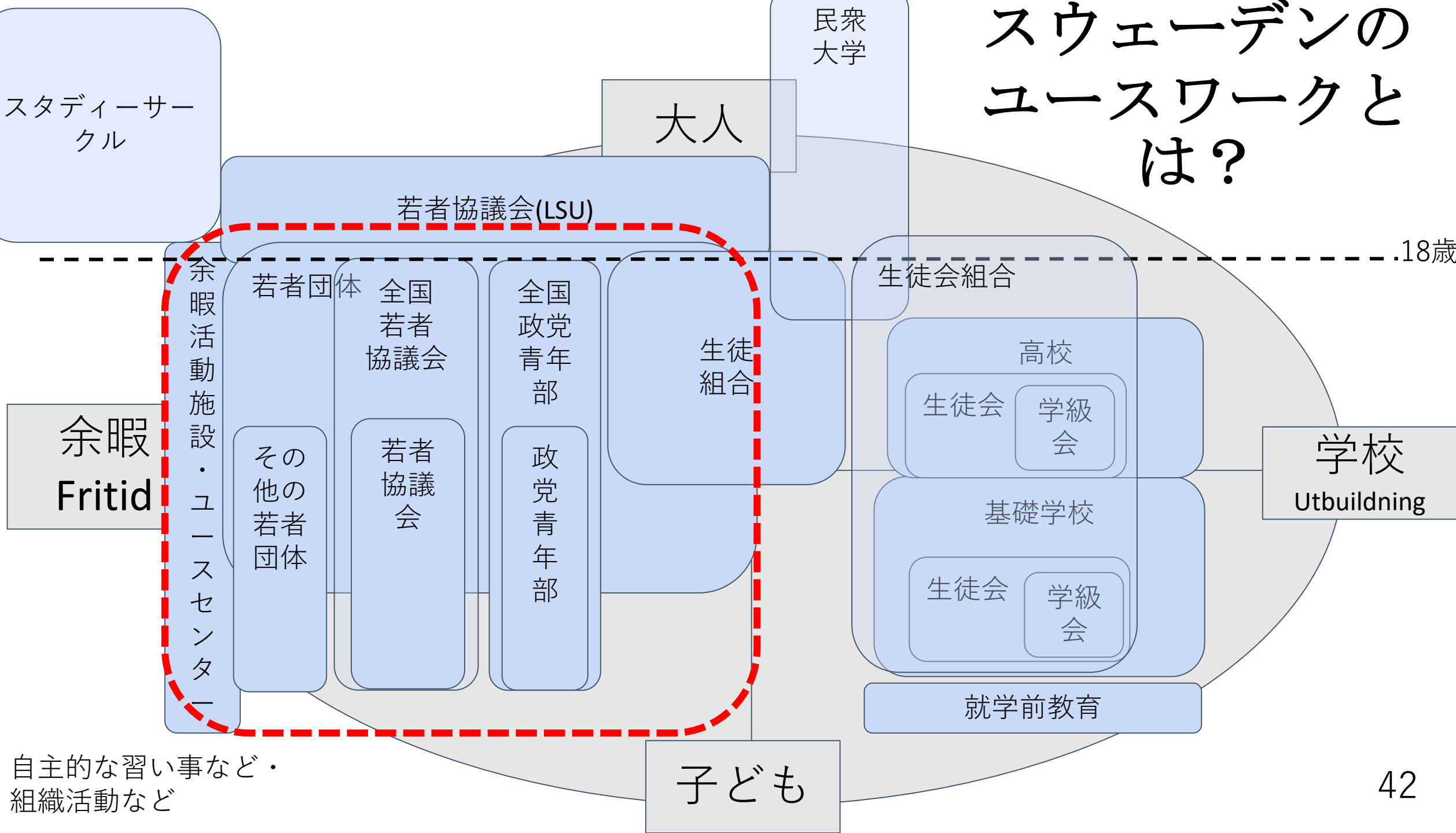
選挙小屋の前での演説



選挙小屋で宿題をする中学生



スウェーデンの ユースワークとは？



スウェーデンの 若者団体とは？



Vi samlar ungdomsrörelsen
"We gather the youth movement"

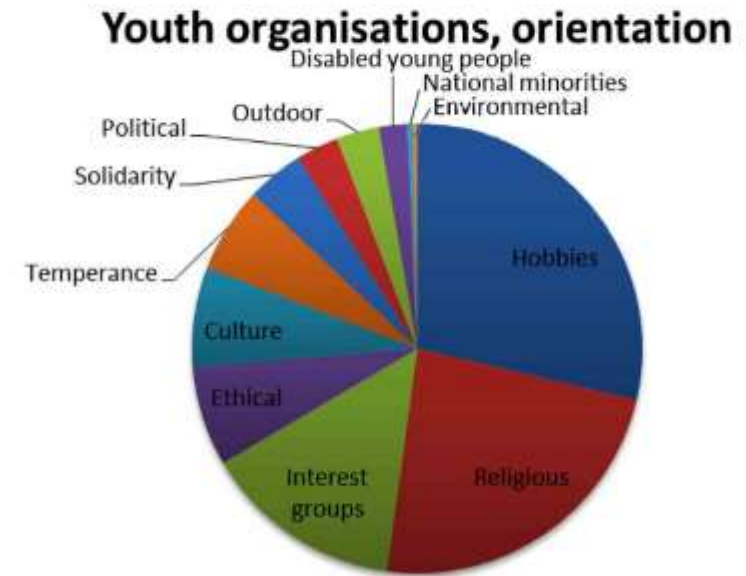


- 少なくとも1つのフェレーニング（協会・団体）に属する若者の割合
 - **16~24歳で58%**
 - **25-29歳で70%**
 - 若い世代だけでも**63万人**
- 3つのフェレーニング
 - 1. 経済フェレーニング**：商店を共同所有している消費者フェレーニングや共同住宅所有者フェレーニング
 - 2. 利益者フェレーニング**：労働組合や経団連のような経営者から構成される団体
 - 3. 非営利フェレーニング**：個人の利益追求を目的としない、スポーツ団体、禁酒団体など
- 若者団体とは、
 - 若者達が出会い交流し、自己を変え、日々をより良いものとする場
 - 若者にとってのプラットフォームであり、若者の、若者のための出会い・交流の場であり、社会と市民社会にとって重要な一部である
 - 「若者運動(**Ungdomsrörelsen**)」の基盤であり、若者は若者団体で、自分の人生に対して「若者の力」を高めると同時に国中の**民主主義**を強固にする役割を担う (Sveriges Ungdomsorganisationer, 2015, p. 8)

若者団体の種類

- 趣味・スポーツ団体：約**3**割
- 宗教
- 圧力団体 (**interest group**)
- エスニック系
- 文化
- 禁酒
- 連帯(**Solidarity**)
- 政治
- 野外
- 障がい
- 先住民族
- 環境

Figure 1 – Youth organisations (other than sports clubs) by membership. In total 600 000 members divided into different orientations.



Source: Governmental report 2009.

地域に若者影響をあたえる若者協議会

ヨーテボリ市若者協議会の例



- ヨーテボリ市の若者**101人(12~17歳)**から構成される
- 理念
 - 若者が若者協議会、地域の行政、政治家に影響を与えることができる
 - 議論される内容を決めるのは若者自身
- 理事会はネットの選挙で選ばれる
 - 大会議を年**5**回、委員会ごとの会議を毎週
- 政治家、行政への提言・質問・意見具申なども行う
 - 若者の公共交通機関の時間限定の無償利用可 (実現)
 - ウォータースライド祭り
 - 地方選挙における**16**歳選挙権の導入
 - 毎年**350**万円の予算 (**12**万以上の出費は自治体から許可)

生徒の学習機会・権利に影響力を持つことを保障する スウェーデン生徒会組合 (Sveriges Elevkårer)



若者が社会への影響力を高める実践
スウェーデンの高校の学生自治会の取り組み
J-CEF NEWS .no8 (2015 Autumn)

- 代表：マティアス・ハルベリ (21歳) (2015)
- 加盟生徒会数：250 (8200人の個人会員、18万人と間接的に関わる)
- 目的： 全国の高校の生徒会の活性化, 生徒、生徒会の権利の擁護, 学校環境の改善
- 活動
 - 研修会開催
 - 教材開発
 - 全国生徒会大会の主催
 - 模擬選挙のサポート
 - グッズ販売
- 正規職員数：45人(平均年齢22歳) 事務所：ストックホルム
 - 年間の取引、約3億5600万円。うち88%は政府からの補助金
- 諮問機関としての「生徒会」(student council)ではなく、独立した生徒会の連合組織 (student body)

政党青年部の役割

事例：穏健党青年部ヨンショーピン支局



- 党員要件は、**13歳**から**30歳**
 - 本部、大学生部、基礎学校・高校生部から構成
 - 党員は全体で**2500人**で、うち青年部は**350人**
 - 会費：年間約**560円**
- 気軽な雰囲気の中で政治的な対話を楽しむ
 - 話し合いから生まれた政策アイデアを毎年実施される青年部の党大会で意見表明する
- 選挙の際には、学校に穏健党の主張を伝えるために学校に招待されることもある
- 主義は穏健党と近いが、具体的政策においては本部（成人部）とは異なる若者世代を重視した政策
- 若い政治家のキャリアステップとなっている

若い担い手を育てる政党青年部



- **グスタフ・フリドリン (33歳) 教育大臣**
 - **11歳**：環境党の青年部会のメンバーになる
 - **16歳**：環境等青年部会の代表に選ばれる
- **2002年**の国政選挙において**19歳**で当選
- 「議員が一生の仕事であってはならない」
 - 「政治という場はあくまで我々が生きる社会の現状を捉え、その社会を変革していくためのベースに過ぎないのだから、そこで仕事をする政治家は現実社会との接点を失ってはならない」
- ジャーナリストに転身後、**2010年**に政界に復帰
- **2014年** 環境党共同代表を務め、社民党連立政権下にて教育大臣に任命



スウェーデンのユースワーク ユースセンター・余暇センターの概 要

- **Måtplats = Meeting Place** = 交流・出会いの場
 - 元々はセツルメントとして**20**世紀初頭に設立したものが広がる
- **13**歳から**25**歳が対象
 - 施設によって対象年齢は異なる, 対象人口の**10**%弱の利用
- 全国**290**の自治体に**1500**施設
- 全国で**3700**人の職員
- 職員の形態
 - 余暇リーダー(**Fritidsledare**)
 - 社会教育士
 - ボランティア、インターン、パート



スウェーデンのユースワークとは？

場所

- 13歳から16歳の若者対象
 - 若者クラブ(Youth club),
 - 余暇センター(Recreation Centre)
- 15歳から20歳までの若者対象
 - ユースセンター(Youth Centre)
 - 活動施設(Activity center),
 - 文化施設 (Cultural Centre)

活動

- 音楽活動
- おしゃべり・相談
- 映画鑑賞・TVゲーム
- イベント企画
- ボランティア活動 / 職業訓練
- 工芸 / アート
- スポーツ (バスケット、バレーボール、サッカー、水泳などなど)
- 宿題の手伝い

Q：日本の中学生に学校の校則、予算を自分たちで決めたいか、という質問をしたら「それは荷が重すぎるからやりたくない」と言った。どうすれば参加の意欲を高めることができるか？

A：「何らかの一部であると感じる」ことができるかが大事。

小さな一歩から始めれば変わってくる。すると、自分は学校の一員だと感じる事が出来る。ここに座り、これをしなさい、と言われるだけの生徒だけではなく、学校の一員であり、学校は私を必要としている、私は学校を必要としていると感じることができれば、生徒たちは校長を選びたいかと問われたときに、もちろんそうしたいと答えるだろう。

(Susana Brolin)

Fryshuset (フリースヒューセット)



- ✓ 1984年 YMCAの支援のもと設立
- ✓ ヨーロッパ最大のユースセンター
- ✓ 24000m²の広大な敷地



ロビー。ハードロックなどのバンドのポスターが掲示されている



スケートボードパーク



体育館

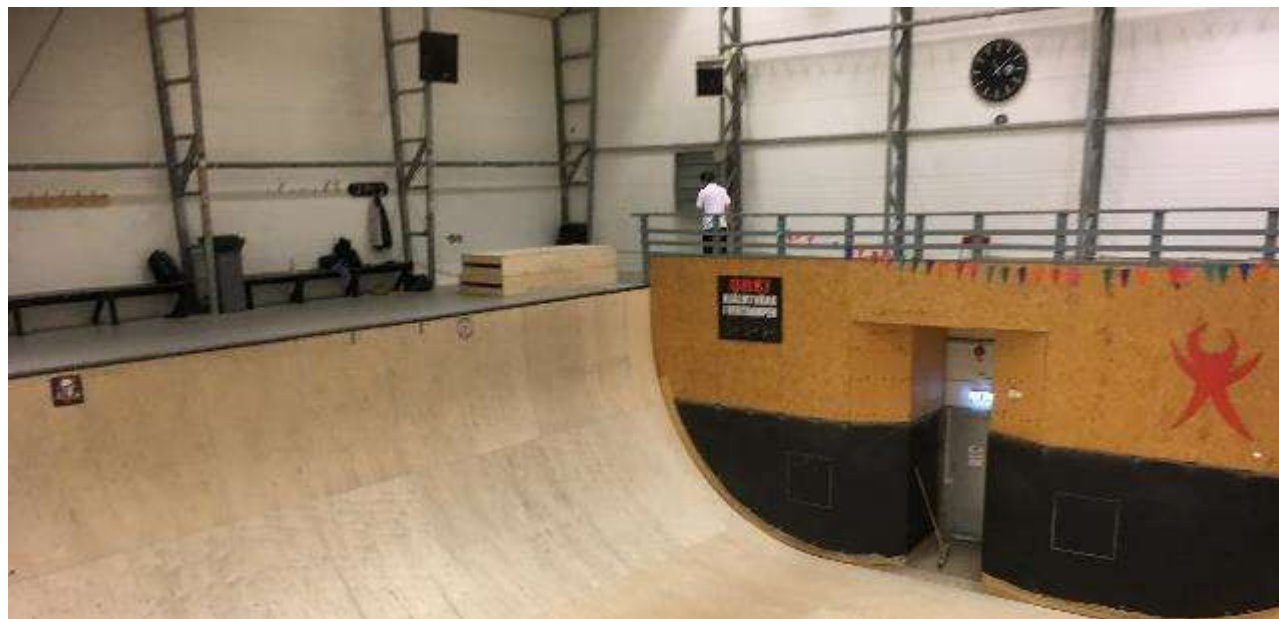
1. ユースカルチャー
2. 学校・教育プログラム
3. ソーシャルワーク

1. EXIT (セクトにはまった若者の当事者による社会復帰支援)
2. Lugna Gatan (デタッチドユースワーク)

4. 就労・起業支援

ユースカル チャー (Ungdomskultur)

- 人をルーツや見た目ですら判断せず、楽しい経験（スポーツ、ミュージック、ダンス等）を提供。
- バスケット：10~16歳の3500人が参加
- Frysbox：13~20歳対象の格闘技道場
- FUSE：ミュージシャン養成の音楽プロジェクト
- Lovely Days：学校休業期間の余暇活動の提供
- 音楽活動：39の音楽スタジオとアリーナを所有
- 劇活動
- アルメダーレン



私の仕事は、人を信じる
ことによって成り立って
いる。決して不信によっ
てではなくて。それは私
がただ単に人のいいところ
しか見ないという意味
ではない。すべての人は、
筋を通し、ちゃんとした
動機があり、そして真っ
当な人に囲まれば、立
ち上がり一歩を踏み出
すことができると信じてい
る。

創設者 アンダーシュ・
カールベリィ





2. ソーシャル・プロジェクト (Föredöme & Framtidstro)

- 様々な課題を抱えている若者を支援するプロジェクト。若者とロールモデルの出会いの設定。
- 20組織全体で50のプロジェクト
- 非行予防が多く、次いで復帰支援のものが多く。大半のプロジェクトは5～6年で終了
- 一番長いプロジェクトは1995年から始まったルグナ・ガタン。
 - 同じ状況で育ってきた文化や地域特性に精通している若者wp「クレディブル・メッセンジャー（Credible Messenger：信頼できる伝達者）」として雇う。
 - 背景も話す言葉も同じなので若者とも信頼関係を築きやすい

フリースヒューセット 4つの価値

1. 私たちは**勇気、信頼、そして責任(responsibility)**を与える。そうすることが個人の生まれ持った力を導く知識と**自尊心**を形成することとなる。
2. 私たちは社会で起きていることに耳を傾け、すぐに行動する。私たちは新しいこと知らないことを恐れない。私たちは、他の人たちが問題とみなすところに機会を見出し、力を与える。私たちは自分たちのやり方を常に試し、修正し、改善に努める。
3. 私たちは、ひとりひとりのニーズを出発点とする。ここでは、どんな生い立ちであろうと、人に関わり、成長しようとしている人につねに扉は開かれている。
4. 私たちは、参加、興味を共有したいという欲求がある真っ当な場所こそあらゆる葛藤、違いを乗り越え、人と人が理解し合うことを促すと信じている。

レオパードン <概要>

- 開館時間：15:00～20:00 *イベント実施の場合は異なることもある
- 現在登録者数：988名（7割が女性） *登録がなくてもセンターの利用は可能
- 対象年齢：16～26歳
来館者数：平均80～100人／日
- スタッフ：7名（うち3名は元利用者）
男性3名：女性4名 資格なし
ジェンダー、アート、教員、弁護士、心理学など各自専門分野をもっている
- センター名の由来は、準絶命危惧種である「ヒョウ(レオパード)」





レオパーデン <ビジョン>



- **【文化はすべてを変える】**
- 「文化」と「民主主義」をキーワードにセンターを運営

文化

- 余暇時間に文化に触れることは人生を変える
- 商業的ではない文化に触れることが重要
- 対話が一番大事
 - ↳ 話の題材になる
 - ↳ 正解・不正解はない
 - ↳ 誰でも触れられる

民主主義

- 政治家と話し合う場をつくる
- 社会問題のポスター掲示や映画鑑賞
 - ↳ 話の題材になり、対話につながる
- 政治に関するイベント実施
- 鍵も渡して場所の貸し出し
- 運営面で小さな民主主義の実践
 - ↳ BGM決め、グッズのデザイン

若者の家 概要

- 開館時間: 14:00~19:00
- 来所者: 70人(平日)、男女比: 1:1、16~18歳
- 若者のための家で若者が運営しており、市が全く運営に関わっていない
- 1986年から会館
- 月2回の総会ミーティングをして、これからの活動とか、運営のためのイベントなどを決めて、その実施も自分たちでやっている
- 職員は2人だけ。一人は事務、もう一人はカフェの運営と経理をしてもらっている

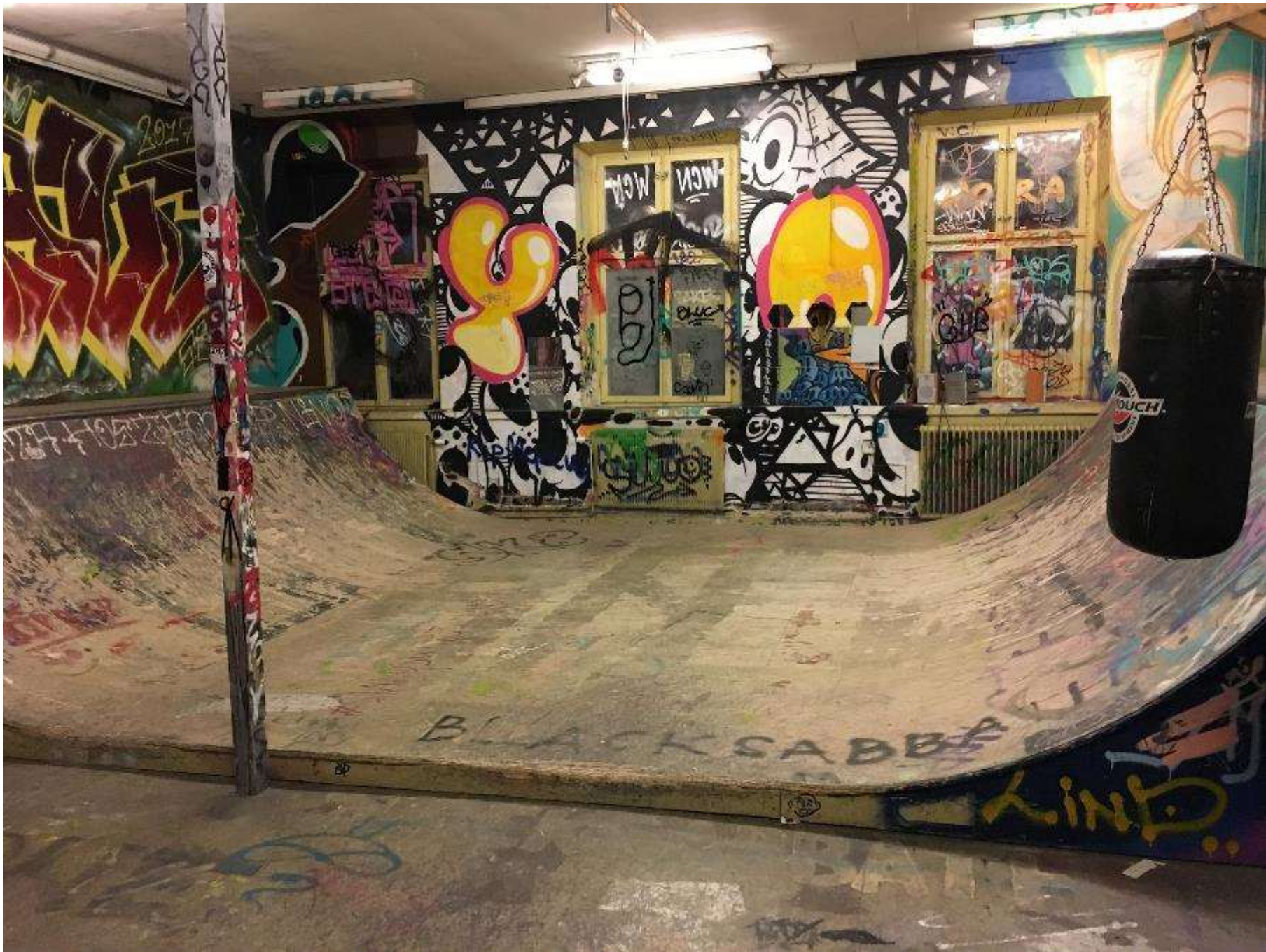


ベンジャミン 19

歳
理事・音響担当
高校を夏に卒業。仕事をしながらこの若者の家の運営に携わる

ダビッド 17歳

理事。活動グループ。
現役の高校生



スウェーデンの若者にとっての民主主義

民主主義とは何ですか？

ベンジャミン：

自分の声を聞かせることができ、影響を与えることができることです。それが大事なものはなぜ？

ベンジャミン：

社会がずっと良くなっていくためには変化が必要で、変化するためにはいろんな人がいろんなことを考えます。たくさんの方のことを考える人もいれば、ちょっとのことしか考えない人もいます。しかし、少ない人が考えるだけでは、いい社会にはなりません。多くの人の考え方が反映されようが、いい社会になると思います。

スウェーデンのユースワークの特徴

- 学校教育、ソーシャルワークとは異なるノンフォーマルな余暇活動を促進
- 施設型、組織・協会活動型がある
- 会員登録不要、若者発のプロジェクト企画型を促進するオープンアクティビティが主流
- 民主主義、若い市民性の滋養の強調
 - 「参加」「余暇活動」のみならず社会への影響を意識
- 職員は余暇活動指導員(fritidsledare)として専門職化している
- 伝統的には、北欧の民主主義の基盤である住民運動、組織・協会活動などが担っていた

なぜ北欧はユニバーサルな
ユースワークが可能か？

民主主義を基礎にした
グループ活動が盛んだから

スウェーデンの 若者団体とは？

- 少なくとも1つのフェレーニング（協会・団体）に属する若者の割合
 - **16~24歳で58%**
 - **25-29歳で70%**
 - 若い世代だけでも**63万人**
- 3つのフェレーニング
 - 1. 経済フェレーニング**：商店を共同所有している消費者フェレーニングや共同住宅所有者フェレーニング
 - 2. 利益者フェレーニング**：労働組合や経団連のような経営者から構成される団体
 - 3. 非営利フェレーニング**：個人の利益追求を目的としない、スポーツ団体、禁酒団体など
- 若者団体とは、
 - 若者達が出会い交流し、自己を変え、日々をより良いものとする場
 - 若者にとってのプラットフォームであり、若者の、若者のための出会い・交流の場であり、社会と市民社会にとって重要な一部である
 - 「若者運動(**Ungdomsrörelsen**)」の基盤であり、若者は若者団体で、自分の人生に対して「若者の力」を高めると同時に国中の**民主主義**を強固にする役割を担う (Sveriges Ungdomsorganisationer, 2015, p. 8)



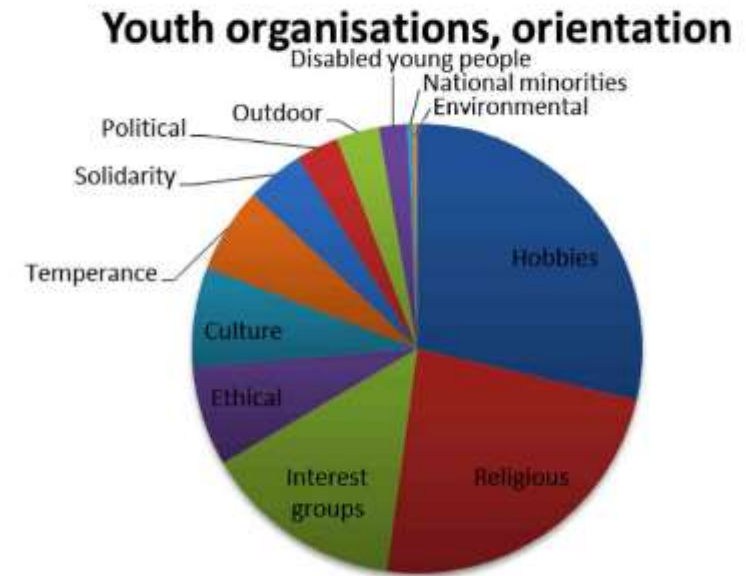
Vi samlar ungdomsrörelsen



若者団体の種類

- 趣味・スポーツ団体：約**3割**
- 宗教
- 圧力団体 (**interest group**)
- エスニック系
- 文化
- 禁酒
- 連帯(**Solidarity**)
- 政治
- 野外
- 障がい
- 先住民族
- 環境

Figure 1 – Youth organisations (other than sports clubs) by membership. In total 600 000 members divided into different orientations.



Source: Governmental report 2009.

大人も若者も十分な
「余暇」があるから



日本
34位

スウェーデン
7位

OECDの「より良い暮らし指標」の、ワークライフバランスの項目
日本は、**37**カ国中**34**位。一方、スウェーデンは**7**位

- 指標 1: 睡眠食事などの個々の生活時間、並びに余暇に充てることのできる**1**日あたりの平均的な時間

- 日本は**14.9**時間で**17**位、スウェーデンは**15.2**時間で**9**位、**OECD**平均 **15**時間 → こちらはほぼ変わらない

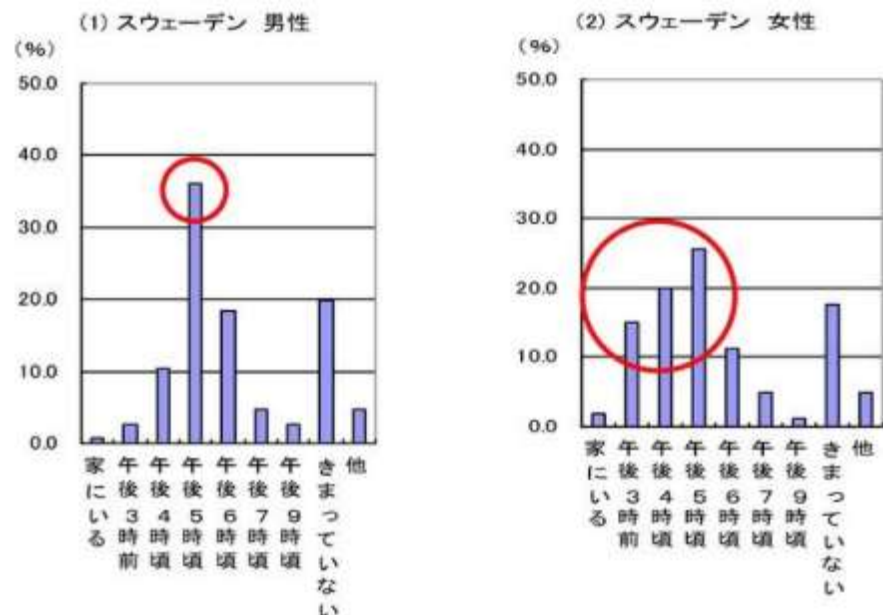
- 指標 2: 一週間あたり**50**時間以上働いている労働者の割合

- 日本は約**23.1%**で**34**位、スウェーデンでは**1.1%**で**3**位、**OECD**平均**13%**

- 日本は、働きすぎている人の割合がスウェーデンよりも圧倒的に多い

余暇の時間（可処分時間）が多いから

スウェーデンの平日の帰宅時間

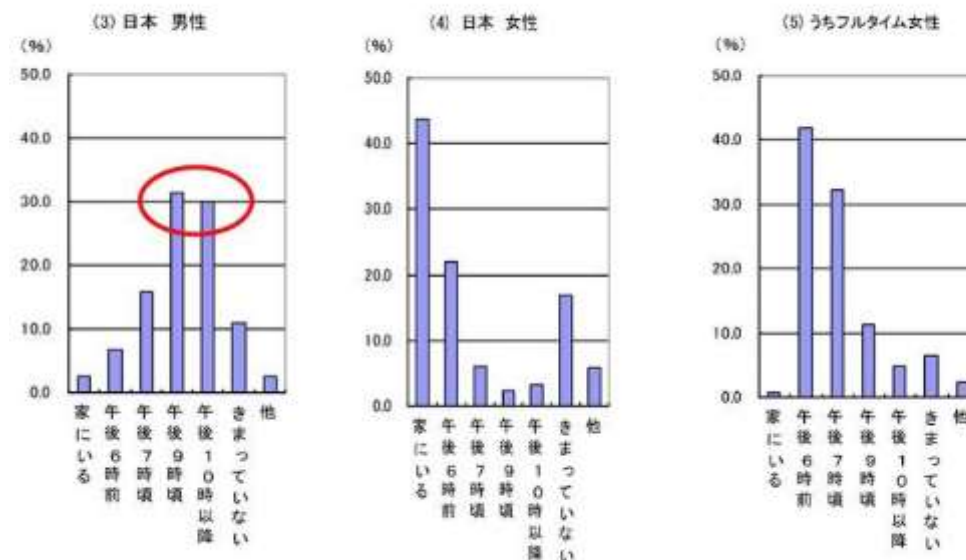


(出所)内閣府経済社会総合研究所編「スウェーデン家庭生活調査」

25 June 2004

日本の平日の帰宅時間

■ 平日の帰宅時間(日本)



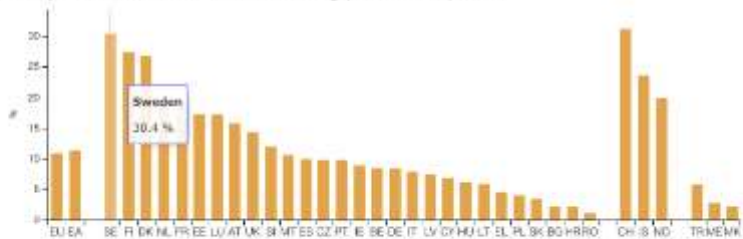
(出所)内閣府経済社会総合研究所編「スウェーデン家庭生活調査」

25 June 2004

大人も「スタディーサークル」で 民主主義の原理に基づいて生涯学習をしているから

スウェーデン国民の生涯学習参加率：EUでトップレベル

Participation rate in education and training (last 4 weeks), 2017



eurostat

スウェーデンの25~64歳の成人のうち四週間以内に教育もしくは職業訓練を受けたことのある人の割合は30.1% =EUでトップ



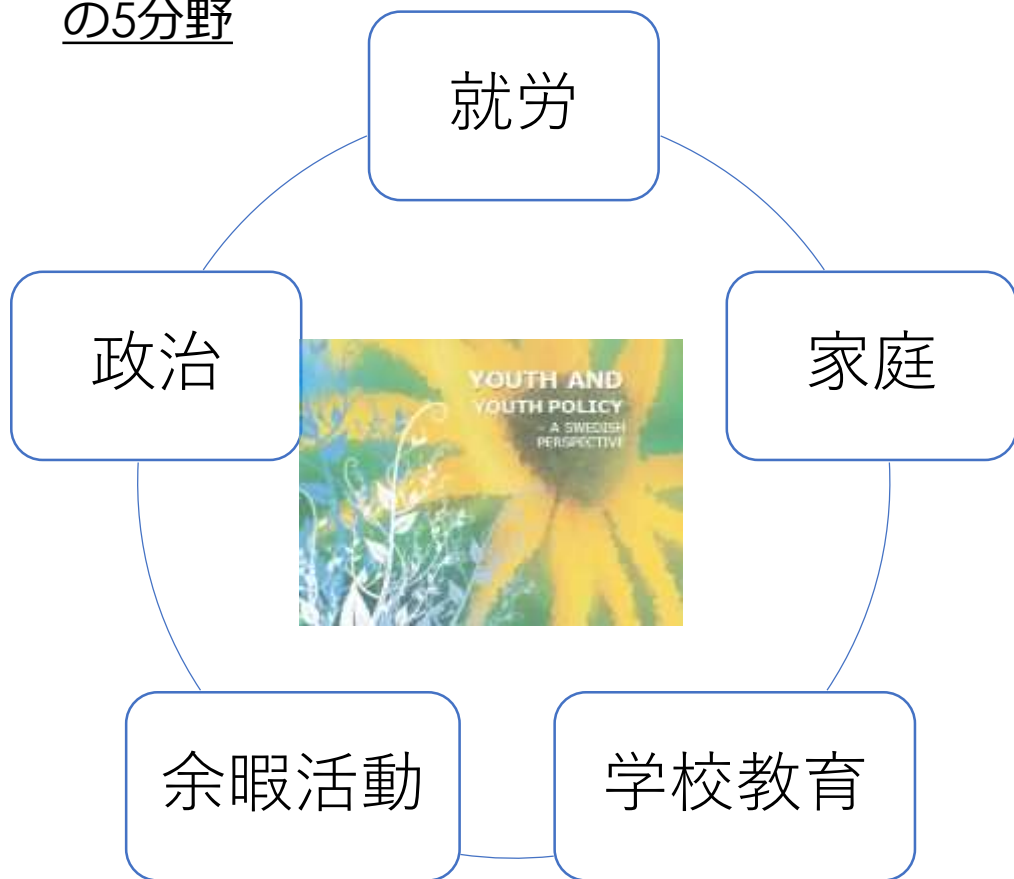
Studie
främjandet

- ・スタディーサークルの数：27万2000団体
- ・合計の参加者数：170万人（2015年）
- ・月2回の学習会が4カ月継続
- ・3人集まれば結成可能
- ・10種類の学習協会に登録することで施設・助成金の利用が可能
- ・政治的な結びつきもある（ABF=社会民主党系、Mbsk=穏健党など）
- ・リーダーは民主的な運営の方法を学ぶガイダンスを受ける

ユニバーサルな
若者政策があるから

包括的な若者政策が整備されているから

若者政策 の5分野



目標

13歳から**25**歳のすべての若者が、良質な生活環境に恵まれ、自身の人生を形作る力を持ち、コミュニティの発展に**影響力**を持つようになること、

With a focus on young people - a policy of good living conditions, power and influence. (Prop. 2013/14: 191)

特徴

- 若者の参画の結果としての「影響力」を目標にしている
- 「若者は社会の問題ではなく社会のリソース(資源)」という認識
- 若者団体への助成金の拠出が目玉政策：
 - 約**30**億円の助成金を**106**の子ども・若者団体に拠出(**2014**)
- 全国規模の若者団体を若者の意見聴取のパートナーと位置付ける

スウェーデンにおける 民主主義の成立の歴史

ノンフォーマルな民主主義の形成

- **1866**年には身分制議会を廃止
- しかし財産と教養による区別は残る (女性・子ども・農村、都市の下層民衆)
- **19**世紀末に国民運動 (**folkrörelse**) が勃興
- →スタディーサークル
- →図書館、集会所、公園などの公共空間ができる
- リスペクタブルな労働者 (**den skötsamme arbetaren**) の出現
- 普通選挙権の成立



社会の若者への眼差しを若者政策の発展 の中で転換してきたから

スウェーデンの若者政策の変遷

1898 国レベルの子ども・若者政策の誕生

1930 ~ 大人の若者への眼差しの転換

1945 「どう大人が若者の余暇活動の選択に影響を与えようというのか」

1950 ~ 地域でユースセンターの設置

1965 若者は、問題ではなく社会の「資源」の視点の導入

1981 消費者化する若者と社会への警告

「若者が、商品や物品の、さらには自身の人生の『消費者』になってしまい、結果として自身の人生をも自分で決めることができなくなっている(政府報告書)」

→若者団体への補助金事業の開始

1986 若者政策担当大臣

1990 子どもの権利としての参加の強調

1994 青年事業庁の設立

2004 若者政策法改定

2014 若者・市民社会庁に再編 参加から影響力へ 社会的排除層にある若者の包摂

EUの若者政策の変遷

1970 ~ 若者の失業問題、高学歴化、社会的関心の希薄化、消費市場の拡大

→社会的に排除される若年層の増大、二極化、移行期の複雑化、多様化

→若者が「社会的排除」層にあることを認識

1990 ~ 若者政策の誕生

2001 EU 若者白書: 3つの目標

- 1. 若者の積極的シティズンシップ (意思決定過程への参画)**
- 2. 若者の経験分野を拡大し認識を広げる**
- 3. 若者の自律を促す**

2010-2018 青少年分野における欧州の協力のための新しい枠組み

- 教育と労働市場におけるすべての若い人たちのためのより平等な多くの機会を提供する。
- すべての若者の能動的な市民性、社会的包摂、連帯を促進

幸福度と社会への信頼の関係

アメリカでは個人の所得は上がり続けても
幸福度はあがらなかった



幸福度が上がらない4つの理由

1. 社会関係材（つながり）の喪失
2. 社会的諸制度への不信感
 - 政府機関など
 - 政治的有効性感覚（Political Efficacy）の有無
3. 他者との比較文化
 - あの人のように金持ちになりたいとか
4. 消費主義の拡大

スウェーデンの対応

- 市民社会・若者団体・教育への投資
- 政府機関の行政の…
 - 透明性を高める
 - 市民の制度・政策への参画を保障する
- 平等の価値の促進
- 子ども若者政策での消費主義への対抗
 - 12歳以下の子どもチャンネルでの広告禁止の措置(1991)
 - 若者団体への助成金の拠出
 - ユースセンターのサービス化に警鐘

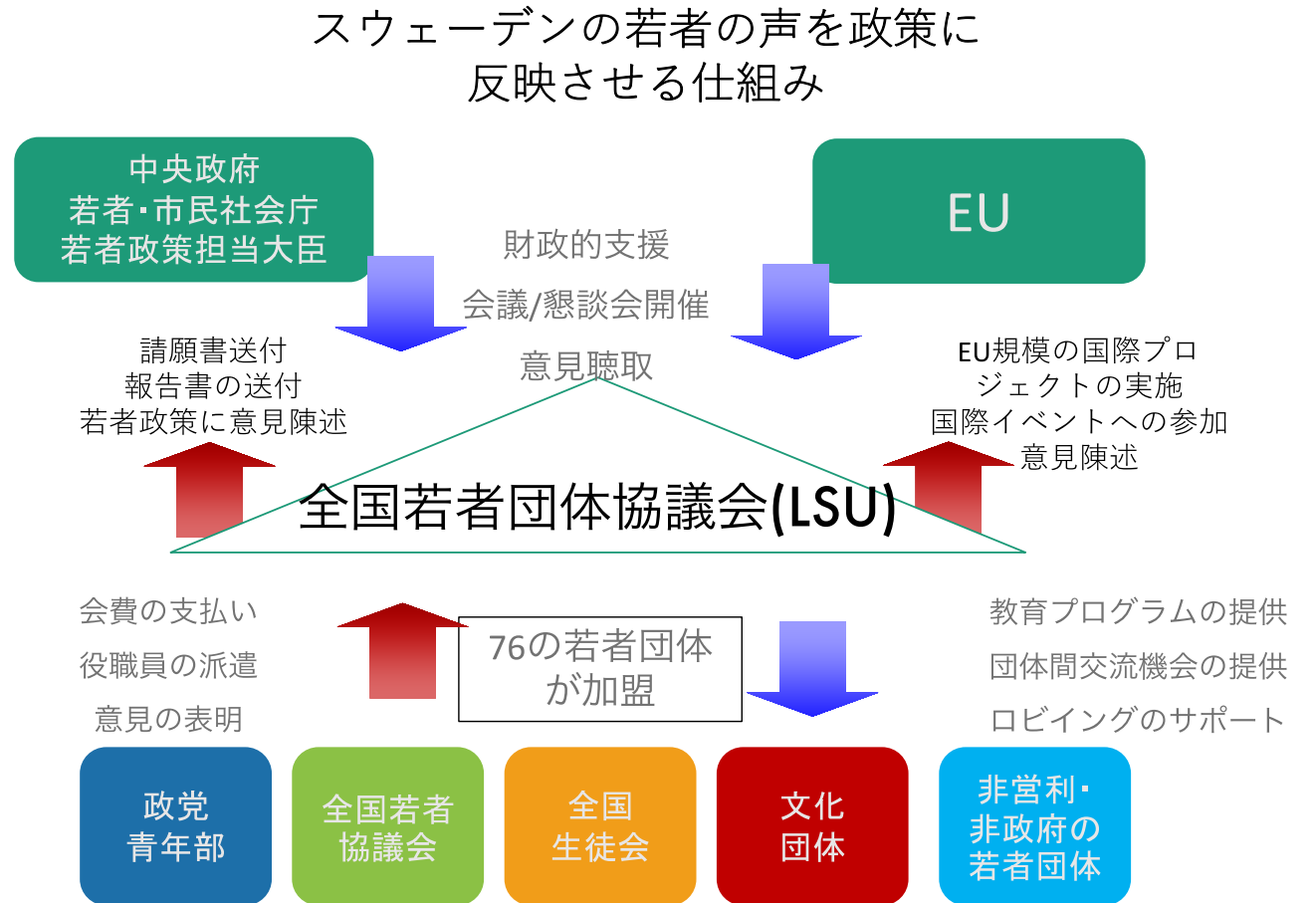
若者の声を吸い上げる仕組みがあるから

レミス制度 (**Remiss**) : 法律を制定する際に法案に関わる市民団体・関連機関が集まる委員会に議題を提出して、そこで了承を得たうえで法律の制定をする制度

- ・ **LSU**は、若者政策の分野でこのレミスに参加する団体のリストを作成

- ・ 若者市民社会庁が主催の若者政策協議会

- ・ 若者の影響力を高めるプロジェクトに助成金



参考 : NPO法人 Rights スウェーデンスタディツアー報告書, 2010

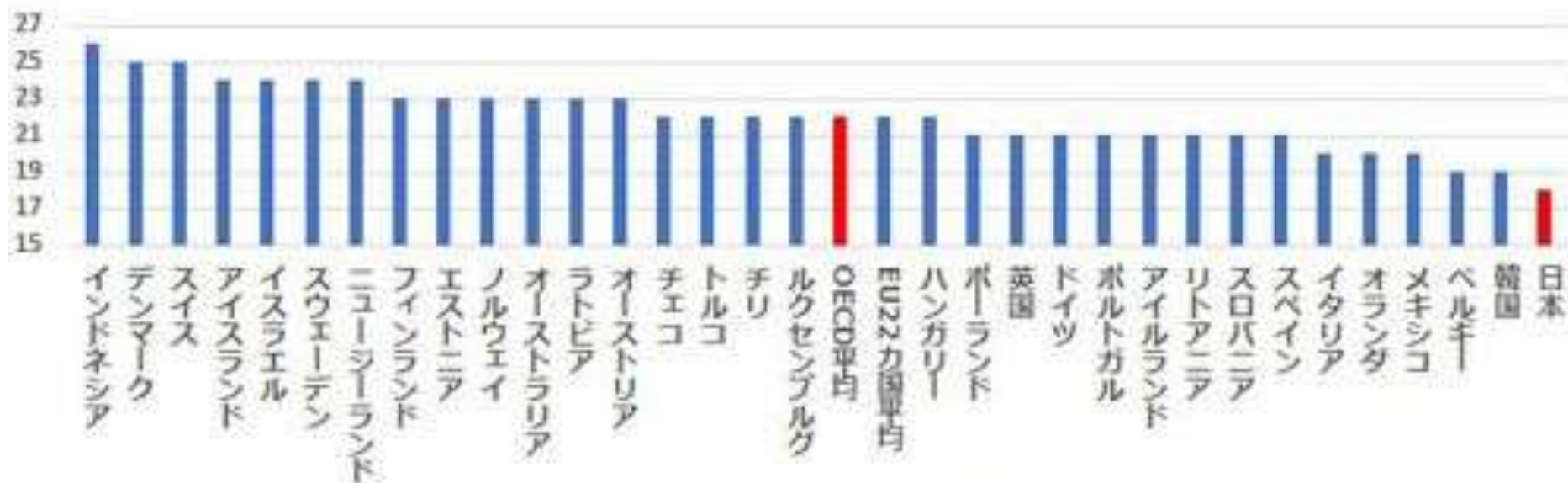


移行期の選択肢の多様化が
本質的な価値を追求できる
若者であることを保障する

- 塾がなく受験競争もゆるい
- 学費は無料か格安
- スウェーデンの大学の平均入学年齢は25歳
- 30歳で定職がみつければいい
- 残業をしないで趣味を大事にする
- 就学 ⇔ 就労 ⇔ 子育て
⇔ 余暇が自由自在
- →若者の子どもから大人になる「移行期」が長く選択肢が多い

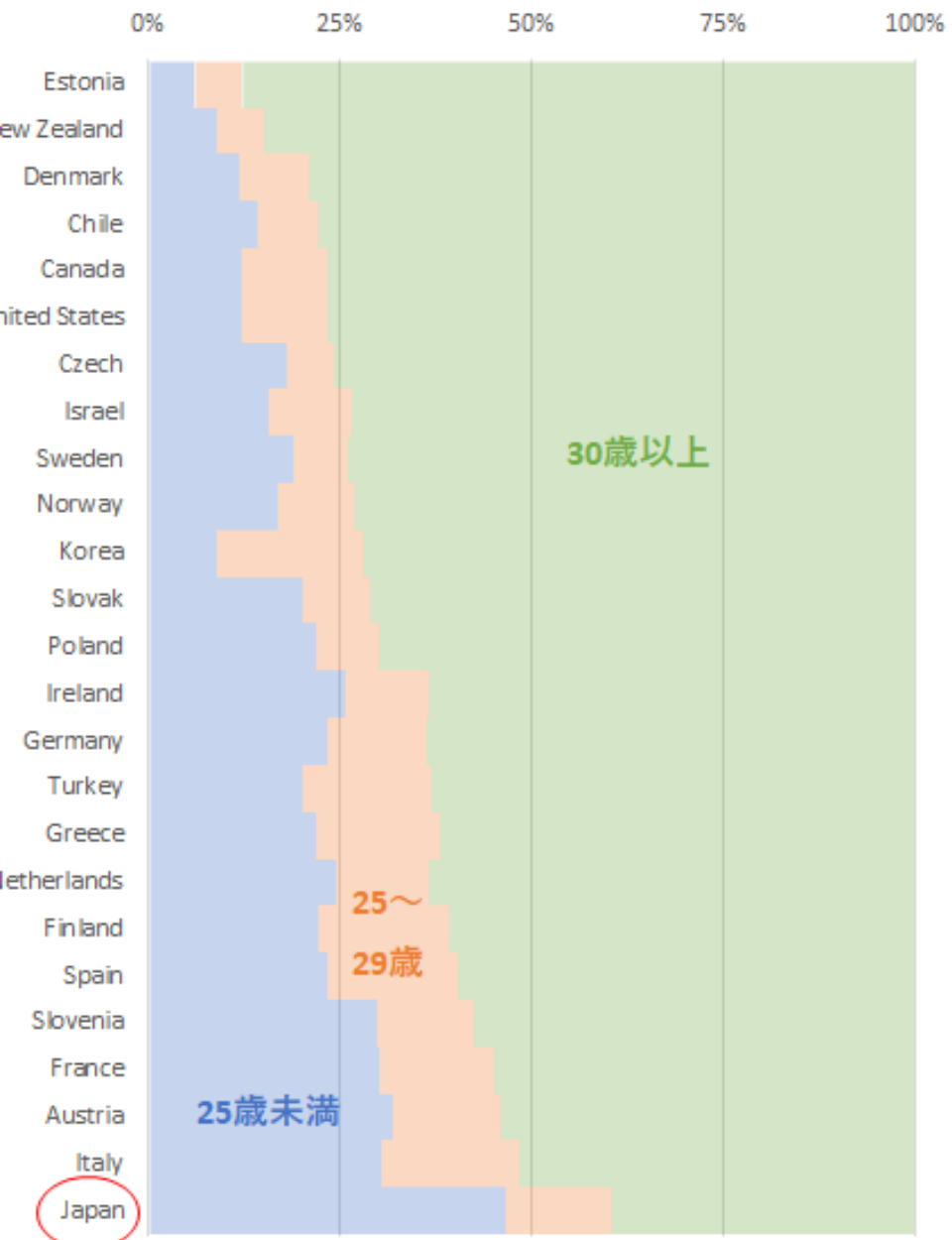
世界の大学入学者の平均年齢は**22**歳 スウェーデンは**24**歳 日本は**18**歳

図1 大学入学者の平均年齢



OECD Education at a Glance 2017より

今の仕事を何歳の時に始めたか？



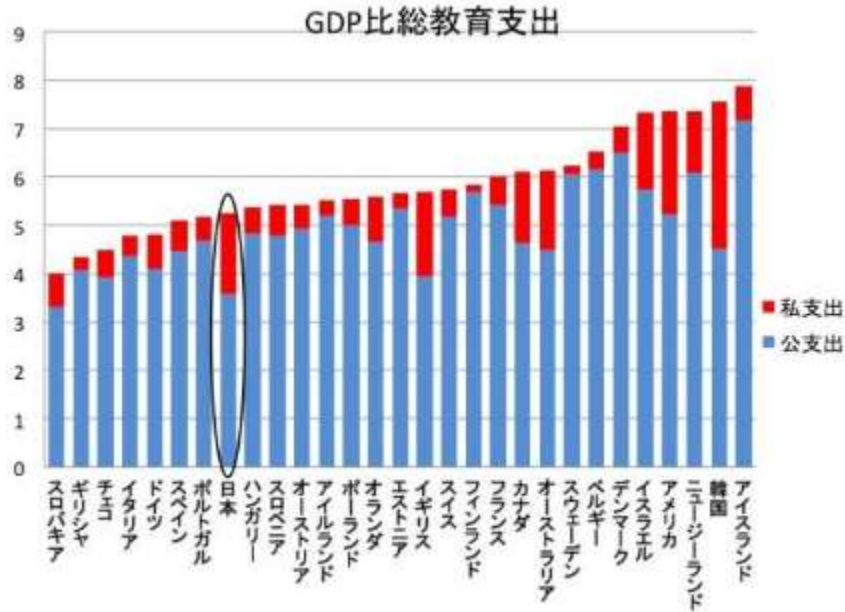
ヨーロッパでは**30歳**で定職につく人が多い

* 45~54歳の男性雇用労働者の回答。OECD「PIAAC 2012」より舞田敏彦作成。

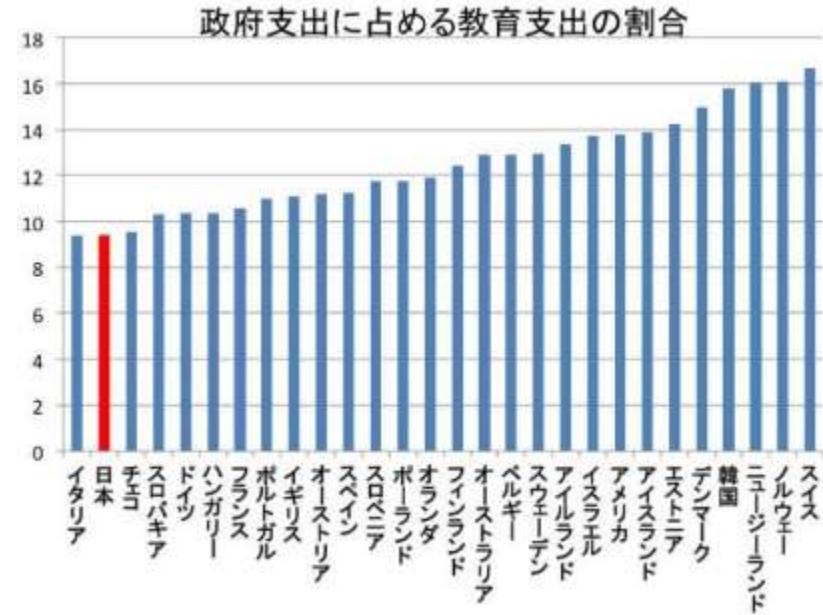
市民社会・教育・若者政策
への投資をするから

高等教育への支出額の国際比較

GDP 比総教育支出

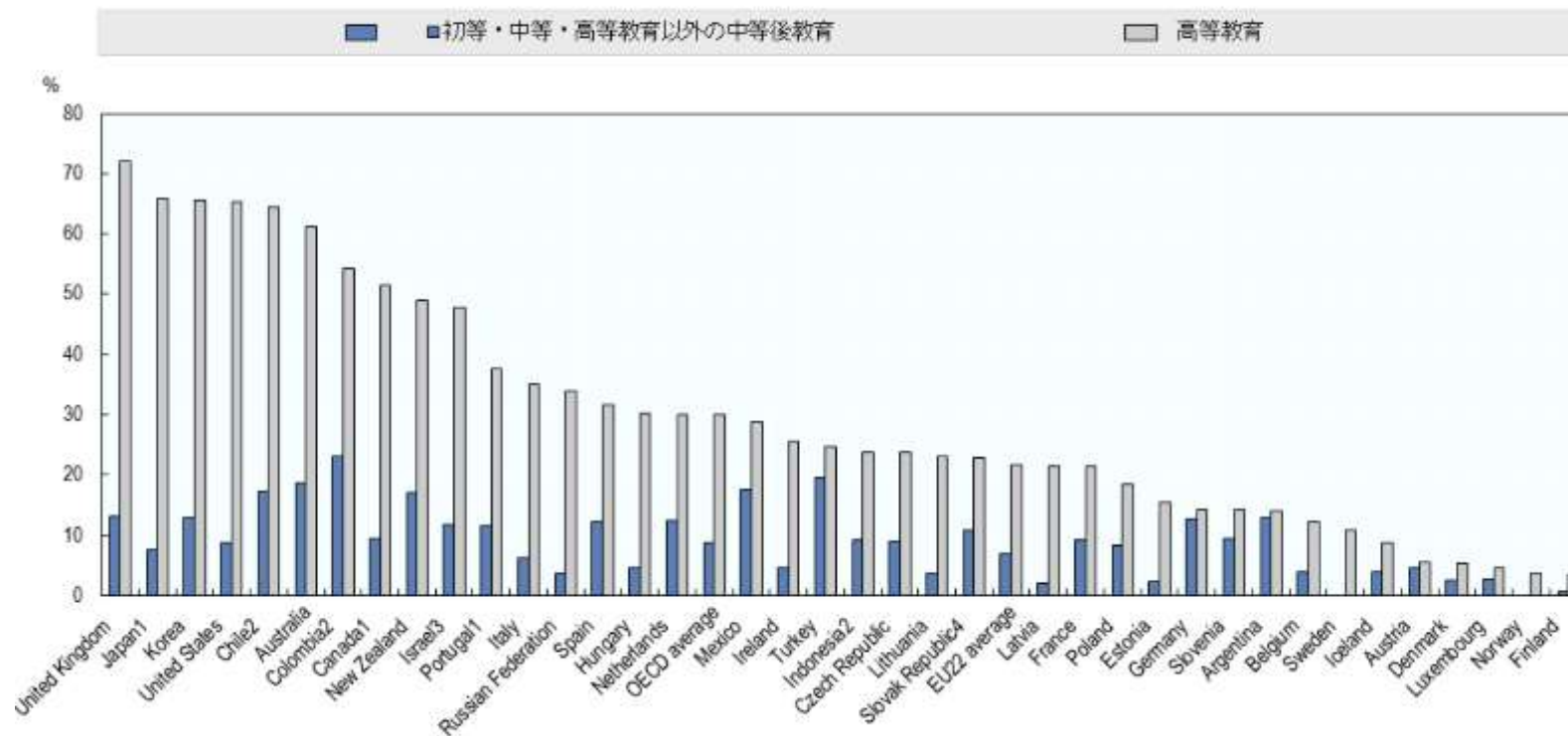


政府支出に占める教育支出の割合



OECD諸国との教育支出の比較から見る日本の教育課題 /
 畠山勝太 / 国際教育開発 | SYNODOS -シノドス-
 4. 高等教育財政：文部科学省

図 2：教育機関に対する教育支出の私費負担割合（2013 年）

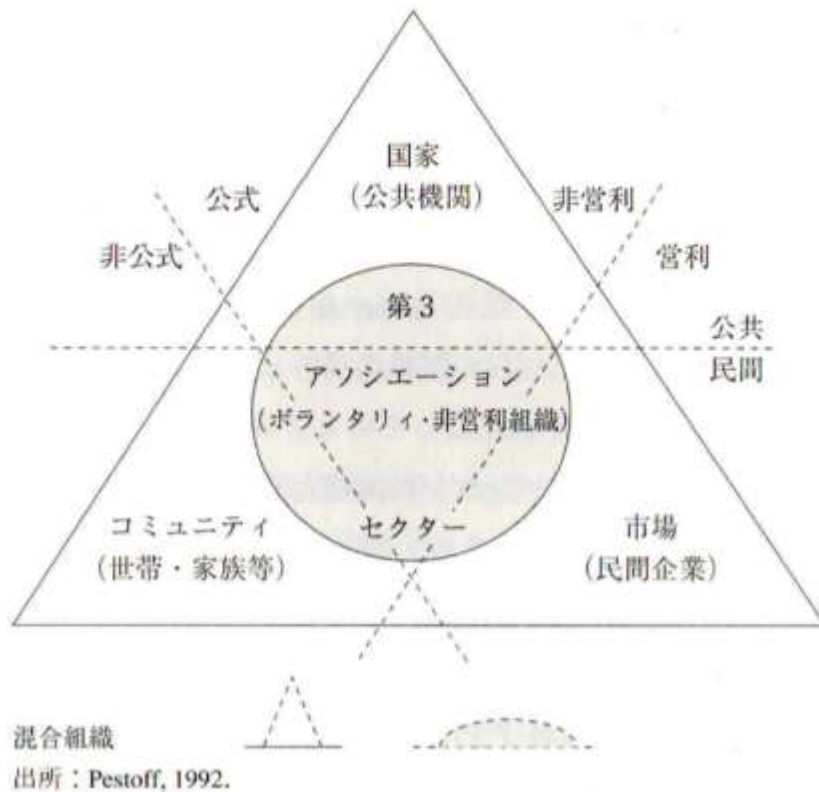


大学・専門学校の学費が高い日本

日本は、高等教育の授業料がデータのある加盟国の中で最も高い国の一つである。また、過去 10年、授業料は上がり続けている。

社会関係資本を担うスウェーデンのユースワーク・市民社会

図 2-1 福祉トライアングルにおける第三セクター

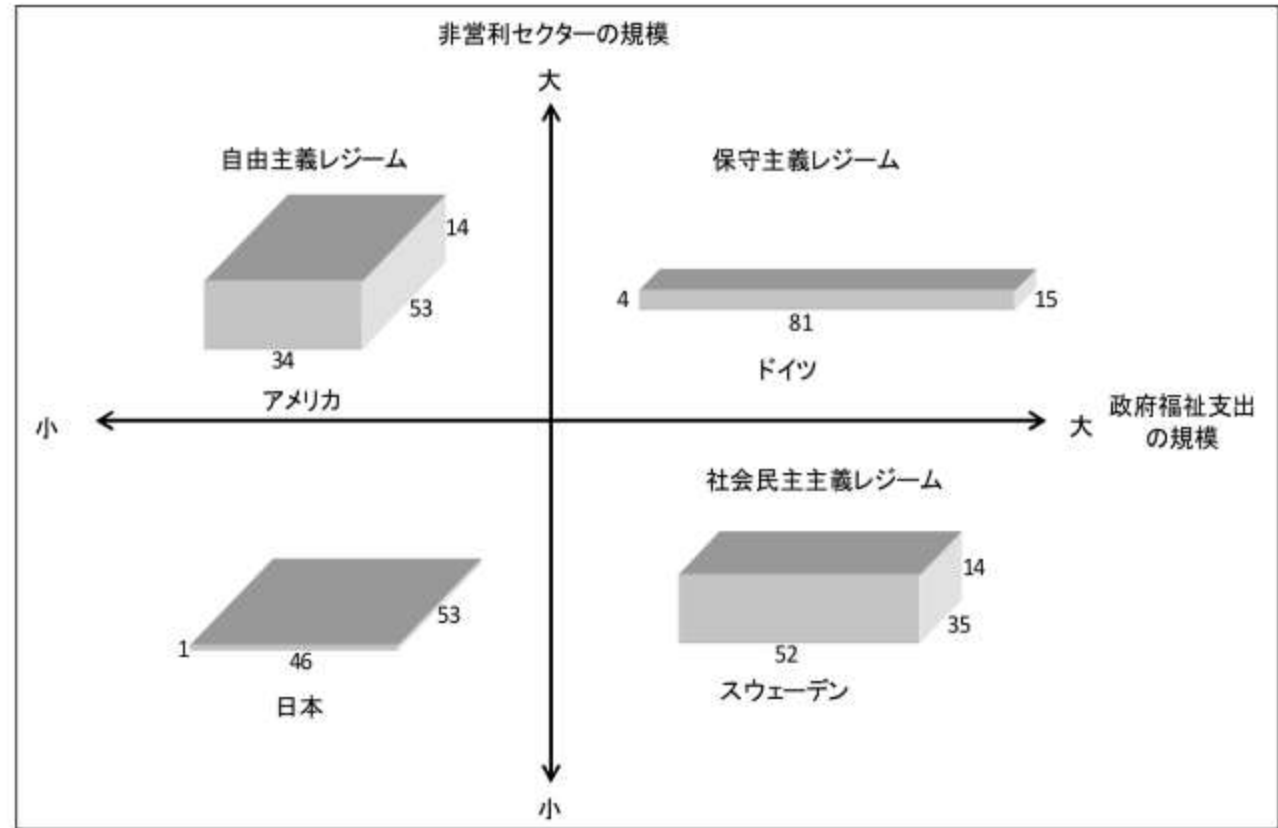


- 戦後のスウェーデン社会において、市民運動や組織・協会運動が若者問題の主要なアクターだった
 - スタディサークル、セツルメント運動
 - 現在の市民活動を担当するスウェーデンの省庁は「若者・市民社会庁」

「濃厚な市民のネットワークがあれば、人々は良好な振る舞いをし、他者を信頼できる方法で尊重し合う。ゆえに、政府も機能する。」 Robert PUTNAM, 2017

- 他者・社会への信頼を高める協会活動、第3セクター、ユースワークを展開
- 社会関係資本、若い民主主義を担うユースワーク、若者団体

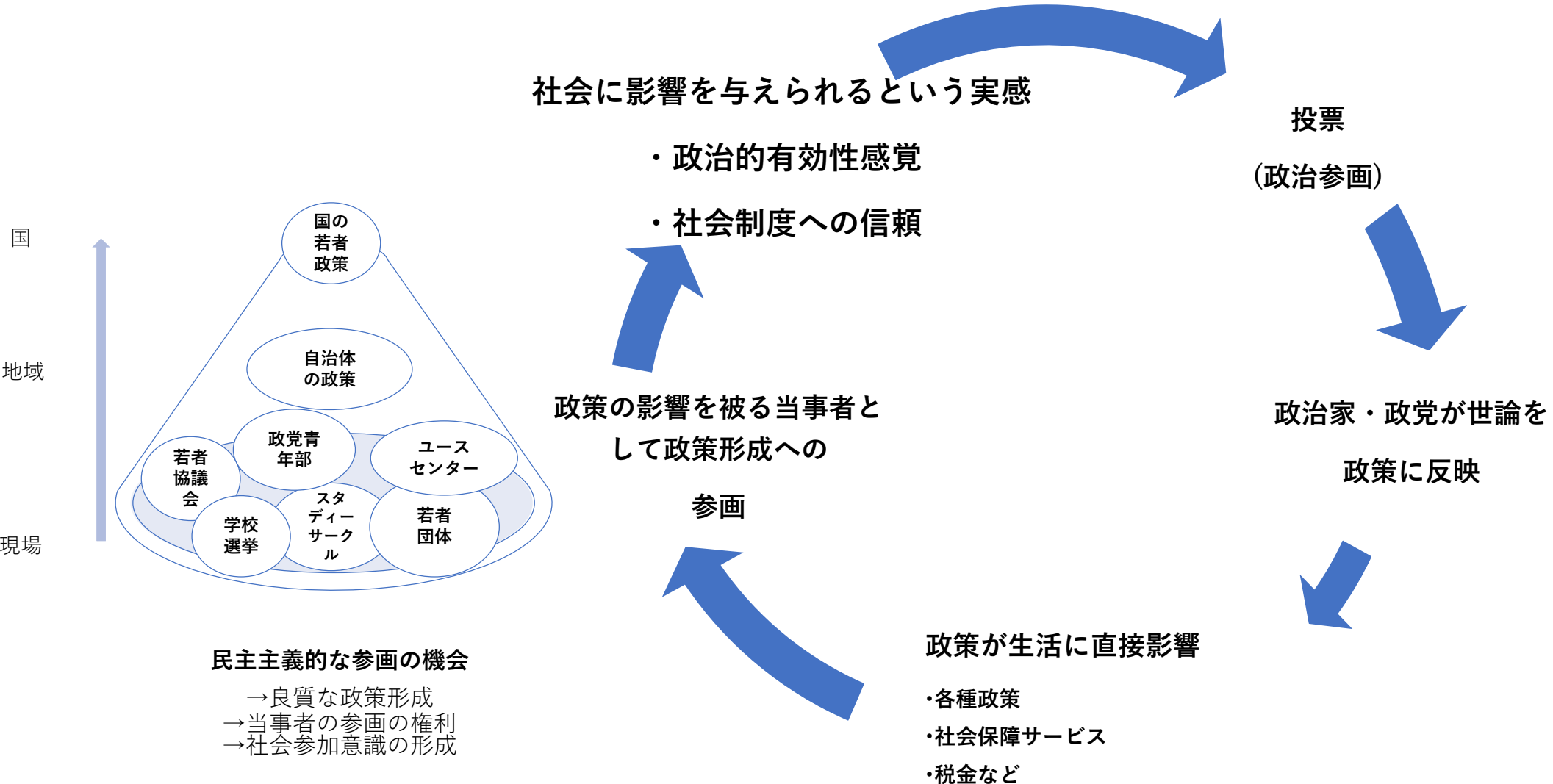
第三セクター の財政的な規模の違い



H. Anheier and W. Seibel, 2001, *The Nonprofit Sector in Germany: Between State Economy and Society*. Manchester University Press

仁平典宏 市民社会と福祉国家 相互排除パラダイムはこれられるか

高い市民の信頼のもとに 民主主義のサイクルが機能しているから



2 議事

(2) 審議

3 今後の予定

第5回 令和2年3月17日〔火〕
16時から18時